Cisco Jabber for Windows 9.1.x 環境設定ガイド

初版：2012 年 09 月 19 日

最終更新：2012 年 09 月 19 日

シスコシステムズ合同会社
〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー
http://www.cisco.com/jp
お問い合わせ先：シスコ コンタクトセンター
0120-092-255 （フリーコール、携帯・PHS含む）
電話受付時間：平日 10:00～12:00、13:00～17:00
http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/

【注意】シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意（**www.cisco.com/jp/go/safety_warning/**）をご確認ください。本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。 このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。 このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。 添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。 シスコおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

Cisco and the Cisco logo are trademarks or registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the U.S. and other countries. To view a list of Cisco trademarks, go to this URL: http://www.cisco.com/go/trademarks. Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1110R)

このマニュアルで使用している IP アドレスは、実際のアドレスを示すものではありません。 マニュアル内の例、コマンド出力、および図は、説明のみを目的として使用されています。 説明の中に実際のアドレスが使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

© 2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

目 次

環境の設定 1

配置モデル 1

オンプレミス導入 2

クラウドベース導入 2

環境アーキテクチャ 4

オンプレミス導入のアーキテクチャ 4

8.6.x オンプレミス導入のアーキテクチャ 4

9.0.x オンプレミス導入のアーキテクチャ 5

クラウドベース導入のアーキテクチャ 7

クラウドベースのアーキテクチャ 8

ハイブリッド クラウドベースのアーキテクチャ 9

8.6 オンプレミス環境のセットアップ 11

セットアップ プロセスの確認 12

基本サービスのアクティブ化および開始 13

環境へのディレクトリの追加 13

TFTP サーバの準備 15

インスタント メッセージおよびプレゼンスの設定 15

メッセージ設定の有効化 16

機能割り当ての指定 16

プレゼンス登録要求に関するプロンプトの設定 17

連絡先リストの一括インポート 19

予定表イベントに対する自動アベイラビリティ ステータスの有効化 19

ユニファイド コミュニケーションの設定 21

ソフトフォン デバイスの作成 21

SIP プロファイルの作成 21

ビデオ デスクトップ共有の設定 22

バージョン 8.6.1 でのビデオ デスクトップ共有の設定 22

バージョン 8.6.2 でのビデオ デスクトップ共有の設定 23
CSF デバイスの作成 25
デバイスへの電話番号の追加 25
デスクフォンのデバイスの作成 26
デスク フォン ビデオの設定 27
デバイスへの電話番号の追加 28
ビデオ レート アダプテーションの有効化 29
共通の電話プロファイルでの RTCP の有効化 30
デバイス設定での RTCP の有効化 30
CTI ゲートウェイのセットアップ 31
CTI ゲートウェイ サーバの追加 31
CTI ゲートウェイ プロファイルの作成 32
ユーザの割り当ての設定 32
デバイスのリセット 34
CCMCIP プロファイルの作成 34
ボイスメールの設定 35
Cisco Unity Connection の設定 35
ボイスメール サーバの追加 36
メールストアの作成 37
ボイスメール プロファイルの作成 37
取得およびリダイレクションの設定 38
Cisco WebEx Meeting Center との統合 40
Cisco WebEx Meeting Center との統合 40
Cisco WebEx Meeting Center クレデンシャルの提供 42
Cisco Jabber for Windows での Cisco WebEx Meeting Center クレデンシャルの指定 42
Cisco Unified Presence でのクレデンシャル ソースの指定 42
Cisco Unified Presence での Cisco WebEx Meeting Center の設定 43
会議サーバの追加 43
会議プロファイルの作成 45
Microsoft Office との統合の設定 46
Microsoft Outlook でのアベイラビリティ ステータスの有効化 46

9.0 オンプレミス環境のセットアップ 49

セットアップ プロセスの確認 **50**

基本サービスのアクティブ化および開始 **51**

環境へのディレクトリの追加 **52**

TFTP サーバの準備 **53**

サービス プロファイルの作成 **54**

インスタント メッセージおよびプレゼンスの設定 **55**

メッセージ設定の有効化 **55**

プレゼンス登録要求に関するプロンプトの設定 **56**

インスタント メッセージおよびプレゼンス サービスの追加 **57**

インスタント メッセージおよびプレゼンス サービスの適用 **58**

ユーザの設定 **59**

ユーザの個別設定 **59**

ユーザの一括設定 **60**

予定表イベントに対する自動アベイラビリティ ステータスの有効化 **61**

ユニファイド コミュニケーションの設定 **62**

ソフトフォン デバイスの作成 **62**

SIP プロファイルの作成 **62**

ビデオ デスクトップ共有の設定 **63**

CSF デバイスの作成 **64**

デバイスへの電話番号の追加 **65**

デスクフォンのデバイスの作成 **66**

デスク フォン ビデオの設定 **67**

デバイスへの電話番号の追加 **68**

ビデオ レート アダプテーションの有効化 **69**

共通の電話プロファイルでの RTCP の有効化 **69**

デバイス設定での RTCP の有効化 **70**

CTI サービスの追加 **70**

CTI サービスの適用 **71**

CTI リモート デバイスの作成 **72**

Cisco Jabber for Windows の拡張および接続 **73**

ユーザ モビリティの有効化 **73**

CTI リモート デバイスの作成 74
デバイスへの電話番号の追加 75
リモート接続先の追加 76
CTI サービスの追加 77
CTI サービスの適用 78
ユーザの割り当ての設定 79
デバイスのリセット 80
CCMCIP プロファイルの作成 81
ボイスメールの設定 82
Cisco Unity Connection の設定 82
ボイスメール サービスの追加 83
ボイスメール サービスの適用 84
メールストア サービスの追加 85
メールストア サービスの適用 86
取得およびリダイレクションの設定 87
Cisco WebEx Meeting Center との統合 88
Cisco WebEx Meeting Center との統合 88
Cisco WebEx Meeting Center クレデンシャルの提供 90
Cisco Jabber for Windows での Cisco WebEx Meeting Center クレデンシャルの指定 91
Cisco WebEx Meeting Center サーバの追加 91
サービス プロファイルへの Cisco WebEx Meeting Center サーバの追加 92
Microsoft Office との統合の設定 93
Microsoft Outlook でのアベイラビリティ ステータスの有効化 94
クラウドベース環境のセットアップ 97
ディレクトリの統合 97
ディレクトリ グループの追加 98
インスタント メッセージおよびプレゼンスの設定 98
プライバシー オプションの設定 99
音声およびビデオ サービスの設定 100
電話会議サービス名アカウントの追加 101
ボイスメールの設定 101

Cisco WebEx Meeting Center の設定 101

Cisco WebEx Meeting Center による認証 101

Cisco Jabber for Windows での Cisco WebEx Meeting Center クレデンシャルの指定 103

第 1 章

環境の設定

このマニュアルでは、Cisco Jabber for Windows 用のサーバ側インフラストラクチャのセットアップと設定に役立つタスクベースの情報を示します。次の内容が含まれます。

- 使用可能な導入モデルの説明
- 環境アーキテクチャの図
- サービスをセットアップおよび設定するためのタスクベースのワークフロー

このマニュアルの目的

このマニュアルに記載されているタスクベースのワークフローは、導入環境に応じた各種サービスの設定に必要な手順の概要を示しています。 このマニュアルは、環境の設定を詳細に説明したガイドではなく、既存のサーバ マニュアルを補足するものです。 このマニュアルは、Cisco Jabber for Windows の導入時に必要なサービスをセットアップするために必ず実行する、基本的なタスクを理解するのに役立ちます。 あらゆる導入シナリオに対応する、環境内の各コンポーネントのインストールと設定の詳細な手順を記述することは、このマニュアルの範囲を超えています。

- 配置モデル，1 ページ
- 環境アーキテクチャ，4 ページ

配置モデル

Cisco Jabber for Windows には、オンプレミスまたはクラウドベースの 2 つの導入モデルがあります。

Cisco Jabber for Windows は、モジュール型の導入アーキテクチャです。 どちらの導入モデルも、基本レベルの機能として、インスタントメッセージングとプレゼンスの機能を提供します。 必要に応じて、サービスを追加して基本導入を拡張し、完全なユニファイドコミュニケーションクライアントをセットアップできます。

このセクションでは、両方の導入モデルについて解説し、オンプレミスおよびクラウドベース導入で使用可能なオプションを説明します。

オンプレミス導入

オンプレミス導入モデルとは、すべてのサービスが、自社で管理および保守されるエンタープライズ ネットワーク上にセットアップされ、設定されるモデルです。

基本的なオンプレミス導入

オンプレミス導入は、インスタント メッセージングおよびプレゼンスの基本機能から開始します。

導入オプション

インスタントメッセージングおよびプレゼンスをセットアップすると、次のユニファイドコミュニケーション機能を使用して導入を拡張できます。

音声

ソフトウェア フォンおよびデスクフォンデバイスで、オーディオコールを送受信します。

ビデオ

ソフトウェア フォン とのビデオ デスクトップ共有など、ビデオの送受信を行います。

ボイスメール

Cisco Jabber for Windows からボイスメール メッセージを直接取得し、着信オーディオ コールをボイスメールにリダイレクトします。

Cisco WebEx Meeting Center 統合

ユーザが連携し、効率的に情報を共有できるよう、ホステッド ミーティング機能を提供します。

Microsoft Office 統合

Microsoft Outlook などの Microsoft Office アプリケーションで、空き状況の状態とクリックツー x 機能を有効にします。

クラウドベース導入

クラウドベース導入は、すべてのサービス、またはほとんどのサービスが Cisco WebEx を通じてホストされるモデルです。 クラウドベース導入は、Cisco WebEx 管理ツール で管理およびモニタします。

基本的なクラウドベース導入

クラウドベース導入は、インスタント メッセージングおよびプレゼンスの基本機能から開始します。

導入オプション

インスタント メッセージングおよびプレゼンスをセットアップすると、次の機能を使用して導入を拡張できます。

会議

Cisco WebEx Meeting Center を通じ、シンプルで柔軟なカンファレンシング機能を有効にします。

Microsoft Office 統合

Microsoft Outlook などの Microsoft Office アプリケーションで、空き状況の状態とクリック ツー x 機能を有効にします。

ハイブリッド クラウドベース導入オプション

ハイブリッドクラウドベース導入は、オンプレミス サーバを組み合わせ、ボイスやビデオなどの追加サービスを提供することにより、クラウドベース導入を拡張するモデルです。

ハイブリッド クラウドベース導入では、次のサーバをセットアップします。

Cisco Unified Communications Manager

次のサービスを提供します。

音声

ソフトウェア フォン およびデスクフォン デバイスで、オーディオ コールを送受信します。

ビデオ

ソフトウェア フォン とのビデオデスクトップ共有など、ビデオの送受信を行います。

Cisco Unity Connection

次のサービスを提供します。

ボイスメール

Cisco Jabber for Windows からボイスメール メッセージを直接取得し、着信オーディオ コールをボイスメールにリダイレクトします。

環境アーキテクチャ

環境アーキテクチャとは、コミュニケーション サービスと機能を Cisco Jabber for Windows に提供するサービスおよびその他のコンポーネントのインフラストラクチャです。 必須コンポーネントとそれらがどのように連携するかについては、展開タイプごとに環境アーキテクチャを確認してください。

オンプレミス導入のアーキテクチャ

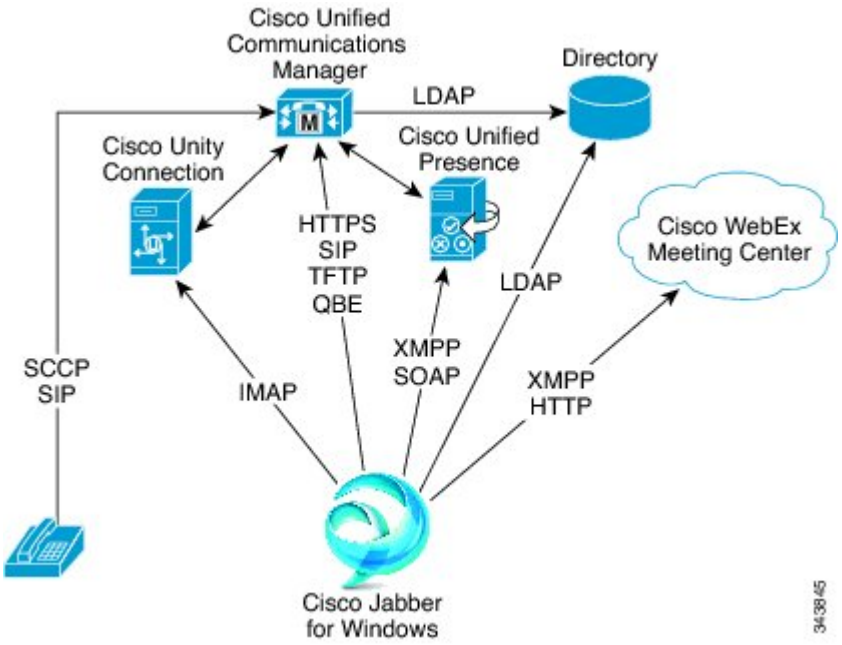
このセクションでは、オンプレミス導入のアーキテクチャについて説明します。

8.6.x オンプレミス導入のアーキテクチャ

このセクションでは、Cisco Unified Communications Manager 8.6.x 以下および Cisco Unified Presence と統合する、8.6x オンプレミス導入について説明します。

次の図では、8.6.x オンプレミス導入のアーキテクチャを示します。

図 *1*：オンプレミス アーキテクチャ



次のリストは、オンプレミス アーキテクチャのコンポーネントを示します。

デスクフォン

シグナリングおよび設定のために Cisco Unified Communications Manager に接続します。

Cisco Unity Connection

ボイスメール機能を提供します。

Cisco Unified Communications Manager

- オーディオおよびビデオ コールの管理機能を提供します。
- ユーザおよびデバイス コンフィギュレーション設定を提供します。
- ユーザ同期およびユーザ認証を行うため、ディレクトリに接続します。

Cisco Unified Presence

- インスタント メッセージングおよびプレゼンス機能を提供します。
- Cisco Jabber for Windows を有効にし、使用可能なサービスの詳細を取得します。

ディレクトリ

次のいずれかのタイプのディレクトリ：

- Microsoft Active Directory
- LDAP ディレクトリ

スタンドアロン ディレクトリの代わりに、ディレクトリを Cisco Unified Communications Manager に同期後、Cisco Unified Communications Manager ユーザ データ サービス をディレクトリ ソースとして使用することができます。

Cisco WebEx Meeting Center

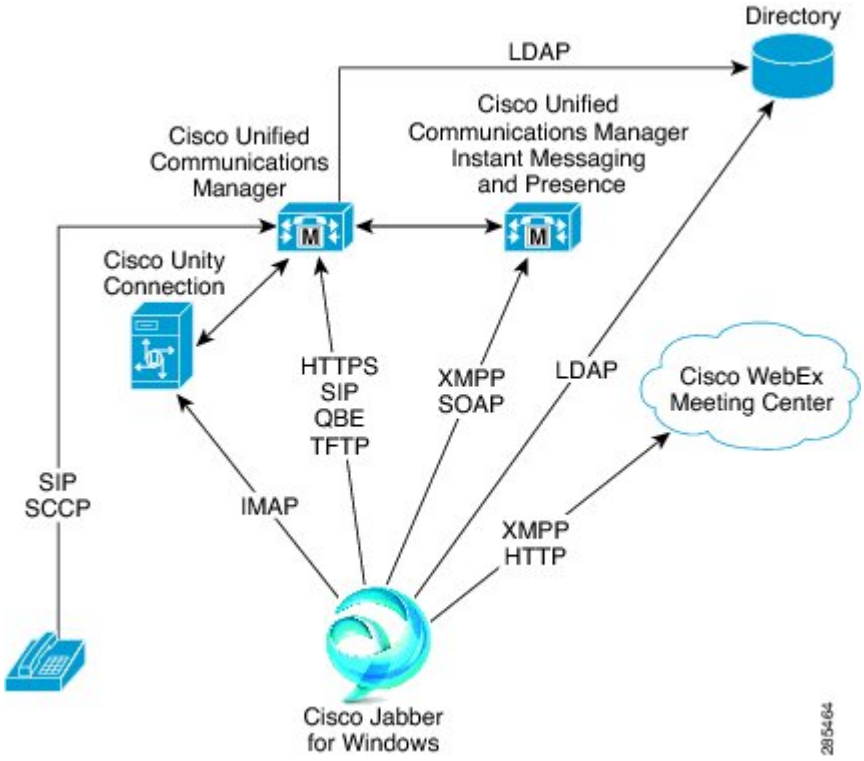
ホステッド ミーティング機能を提供します。

9.0.x オンプレミス導入のアーキテクチャ

このセクションでは、Cisco Unified Communications Manager 9.0.x 以降および Cisco Unified Communications IM and Presence と統合する 9.0x オンプレミス導入について説明します。

次の図では、9.0.x オンプレミス導入のアーキテクチャを示します。

図 *2*: オンプレミス アーキテクチャ



次のリストは、オンプレミス アーキテクチャのコンポーネントを示します。

デスクフォン

シグナリングおよび設定のために Cisco Unified Communications Manager に接続します。

Cisco Unity Connection

ボイスメール機能を提供します。

Cisco Unified Communications Manager

- オーディオおよびビデオ コールの管理機能を提供します。
- ユーザおよびデバイス コンフィギュレーション設定を提供します。
- ユーザ同期およびユーザ認証を行うため、ディレクトリに接続します。

Cisco Unified Communications IM and Presence

- インスタント メッセージングおよびプレゼンス機能を提供します。
- Cisco Jabber for Windows を有効にし、使用可能なサービスの詳細を取得します。

ディレクトリ

次のいずれかのタイプのディレクトリ：

- Microsoft Active Directory
- LDAP ディレクトリ

スタンドアロン ディレクトリの代わりに、ディレクトリを Cisco Unified Communications Manager に同期後、Cisco Unified Communications Manager ユーザ データ サービス をディレクトリ ソースとして使用することができます。

Cisco WebEx Meeting Center

ホステッド ミーティング機能を提供します。

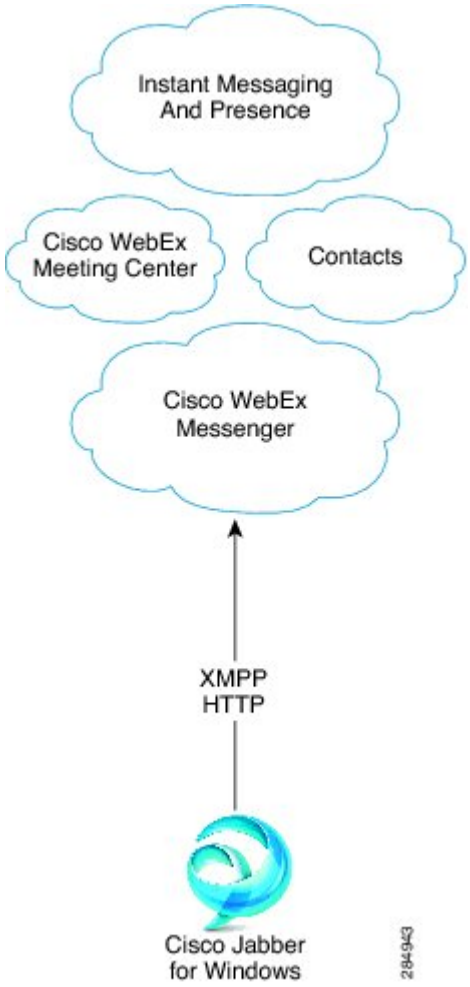
クラウドベース導入のアーキテクチャ

このセクションでは、クラウドベース導入のアーキテクチャについて説明します。

クラウドベースのアーキテクチャ

次の図は、クラウドベース導入のアーキテクチャを示します。

図 *3*：クラウドベース アーキテクチャ



次のリストは、クラウドベース アーキテクチャのコンポーネントを示します。

Cisco WebEx メッセンジャー

連絡先のホステッド サービスとインスタント メッセージおよびプレゼンス機能を提供します。

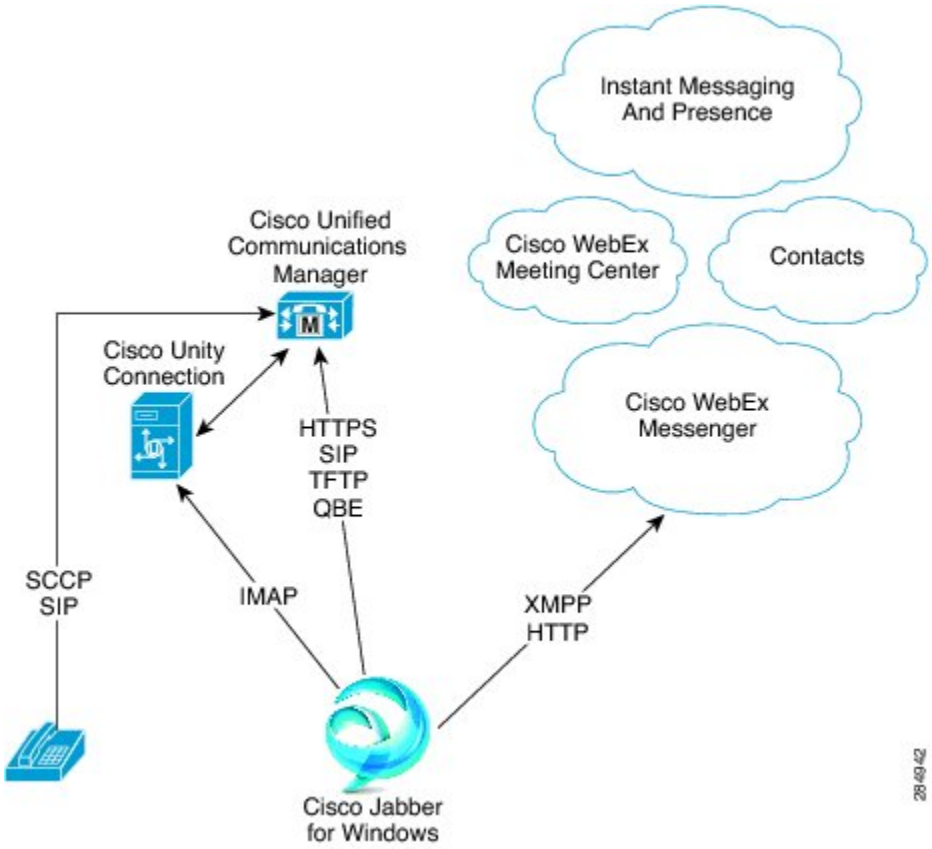
Cisco WebEx Meeting Center

ホステッド ミーティング機能を提供します。

ハイブリッド クラウドベースのアーキテクチャ

次の図は、ハイブリッド クラウドベースによる展開のアーキテクチャを示します。

図 *4*：ハイブリッド クラウドベースのアーキテクチャ



次のリストでは、ハイブリッド クラウドベースのアーキテクチャのコンポーネントについて説明します。

Cisco WebEx メッセンジャー

連絡先のホステッド サービスとインスタント メッセージおよびプレゼンス機能を提供します。

Cisco WebEx Meeting Center

ホステッド ミーティング機能を提供します。

デスクフォン

シグナリングおよび設定のために Cisco Unified Communications Manager に接続します。

Cisco Unified Communications Manager

- オーディオおよびビデオ コールの管理機能を提供します。
- ユーザおよびデバイス コンフィギュレーション設定を提供します。

Cisco Unity Connection

ボイスメール機能を提供します。

第 2 章

8.6 オンプレミス環境のセットアップ

この章では、Cisco Unified Communications Manager バージョン 8.6 またはそれ以前のバージョンおよび Cisco Unified Presence を使用した環境のセットアップ手順を示すタスクベースの情報を提供します。

（注）

Cisco Unified Communications Manager および Cisco Unified Presence のインストールと設定に伴う詳細なタスクに関する情報を記述することは、このマニュアルの範囲を超えています。 この章の目的は、Cisco Jabber for Windows 用に環境をセットアップするために必要なタスクのワークフローを示すことにあります。 詳細情報を確認し、それぞれの導入環境に特有のインストールおよび設定タスクを実行するには、環境内の各コンポーネントに関する適切なマニュアルを参照してください。

前提条件

この章内のタスクを開始する前に、次の作業を行う必要があります。

- Cisco Unified Communications Manager をインストールおよび設定する。
- Cisco Unified Presence をインストールおよび設定する。

メモ

Cisco Unified Communications Manager および Cisco Unified Presence をインストールするときは、サーバ間の通信を有効にするために必要な詳細を指定します。 この通信には、Cisco Unified Communications Manager と Cisco Unified Presence の間のアベイラビリティ ステータスの同期化を可能にするための SIP パブリッシュ トランクが含まれます。

- セットアップ プロセスの確認，12 ページ
- 基本サービスのアクティブ化および開始，13 ページ
- 環境へのディレクトリの追加，13 ページ
- TFTP サーバの準備，15 ページ

- インスタント メッセージおよびプレゼンスの設定，15 ページ
- ユニファイド コミュニケーションの設定，21 ページ
- ボイスメールの設定，35 ページ
- Cisco WebEx Meeting Center との統合，40 ページ
- Microsoft Office との統合の設定，46 ページ

セットアップ プロセスの確認

このトピックでは、Cisco Unified Communications Manager バージョン 8.6 またはそれ以前のバージョンを使用する環境をセットアップするプロセスの概要を示します。

手順

ステップ 1 基本サービスをアクティブ化して開始します。
基本サービスがアクティブであり、Cisco Unified Presence で実行中であることが必要です。 これらの基本サービスは、Cisco Jabber for Windows が必要とする各種の機能を提供します。

ステップ 2 環境にディレクトリを追加します。
環境にディレクトリを追加すると、次のことが起こります。

- ディレクトリ サーバに存在するユーザ データが Cisco Unified Communications Manager データベースに入力される。
- 環境内でプロファイルに追加できる、また機能をプロビジョニングできる対象のユーザが Cisco Unified Communications Manager に提供される。

ステップ 3 TFTP サーバを準備します。
Cisco Jabber for Windows は、TFTP サーバから設定を取得します。 Cisco Jabber for Windows がこれらの設定を取得できるように、Cisco Unified Presence で TFTP サーバの IP アドレスを指定する必要があります。

ステップ 4 インスタント メッセージおよびプレゼンスを設定します。
導入を開始するには、まず、インスタントメッセージおよびプレゼンスを設定します。 チャットおよびアベイラビリティ ステータスの機能を正常に設定した後は、その他のサービスを追加し、音声およびビデオまたはボイスメールなどの追加機能を設定することで、導入を拡張できます。

ステップ 5 （任意） ユニファイド コミュニケーションを設定します。

ステップ 6 （任意） ボイスメールを設定します。

ステップ 7 （任意） Microsoft Office との統合を設定します。

基本サービスのアクティブ化および開始

基本サービスによってサーバ間の通信が可能になり、Cisco Jabber for Windows に機能が提供されます。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified Presence サービスアビリティ（Cisco Unified Presence Servicability）] インターフェイスを開きます。

ステップ 2 [ツール（Tools）] > [コントロールセンタの機能サービス（Control Center - Feature Services）] を選択します。

ステップ 3 [サーバ（Server）] ドロップダウン リストから適切なサーバを選択します。

ステップ 4 次のサービスが開始され、アクティブ化されることを確認します。

- Cisco UP SIP Proxy
- Cisco UP Sync Agent
- Cisco UP XCP Authentication Service
- Cisco UP XCP Connection Manager
- Cisco UP Presence Engine

ステップ 5 [ツール（Tools）] > [コントロールセンタの機能サービス（Control Center - Feature Services）] を選択します。

ステップ 6 [サーバ（Server）] ドロップダウン リストから適切なサーバを選択します。

ステップ 7 [Cisco UP XCP Router サービス（Cisco UP XCP Router Service）] が実行中であることを確認します。

次の作業

必要に応じて追加サービスをアクティブ化し、開始します。 使用可能サービスを確認し、導入環境に追加サービスが必要であるかどうかを判断するには、適切な Cisco Unified Presence マニュアルを参照してください。

環境へのディレクトリの追加

環境にディレクトリを追加することで、ディレクトリ サーバに存在するユーザ データが Cisco Unified Communications Manager データベースに入力されます。 このタスクを実行すると、プロファイルに追加できる、また機能をプロビジョニングできる環境内対象ユーザが Cisco Unified Communications Manager に提供されます。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理（Cisco Unified CM Administration）] インターフェイスを開きます。

ステップ 2 [システム（System）] > [LDAP] > [LDAP システム（LDAP System）] を選択します。
[LDAP システムの設定（LDAP System Configuration）] ウィンドウが開きます。

ステップ 3 [LDAP システム情報（LDAP System Information）] セクションを見つけます。

ステップ 4 [LDAP サーバからの同期を有効にする（Enable Synchronizing from LDAP Server）] を選択します。

ステップ 5 次のドロップダウン リストから、適切な値を選択します。

- LDAP サーバ タイプ（LDAP Server Type）
- ユーザ ID の LDAP 属性（LDAP Attribute for User ID）

ステップ 6 [システム（System）] > [LDAP] > [LDAP ディレクトリ（LDAP Directory）] を選択します。

ステップ 7 [新規追加（Add New）] を選択します。
[LDAP ディレクトリ（LDAP Directory）] ウィンドウが開きます。

ステップ 8 [LDAP ディレクトリ（LDAP Directory）] ウィンドウで必要な詳細を指定します。
指定できる値と形式の詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager Administration Guide*』の「*LDAP Directory Configuration*」を参照してください。

ステップ 9 [保存（Save）] を選択します。

ステップ 10 [完全同期を今すぐ実施（Perform Full Sync Now）] を選択します。

（注） 同期プロセスが完了するまでの時間は、ディレクトリに存在するユーザ数によって異なります。 数千のユーザが存在する大規模なディレクトリを同期する場合は、ある程度処理に時間がかかることが予想されます。

ディレクトリ サーバからのユーザ データは、Cisco Unified Communications Manager データベースに同期されます。 Cisco Unified Communications Manager は、そのユーザ データを Cisco Unified Presence データベースに同期させます。

次の作業

ディレクトリ内のユーザが Cisco Unified Communications Manager および Cisco Unified Presence で使用可能かどうかを確認します。

ディレクトリ内のユーザが、使用可能なユーザのリストで返された場合、ディレクトリは正常に環境に追加されています。

関連トピック

「Configuring Cisco Unified Communication Manager Directory Integration」
「LDAP Directory Configuration」
「Cisco Unified Presence: Integrating the LDAP Directory」

TFTP サーバの準備

Cisco Jabber for Windows は、TFTP サーバから設定およびデバイス設定を取得します。 Cisco Jabber for Windows がこれらの設定を取得できるように、Cisco Unified Presence で TFTP サーバの IP アドレスを指定する必要があります。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified Presence の管理（Cisco Unified Presence Administration）] インターフェイスを開きます。

ステップ 2 [アプリケーション（Application）] > [Cisco Jabber] > [設定（Settings）] を選択します。

（注） Cisco Unified Presence の一部バージョンでは、このパスが [アプリケーション（Application）] > [Cisco Unified Personal Communicator] > [設定（Settings）] となります。

[Cisco Jabber の設定（Cisco Jabber Settings）] ウィンドウが開きます。

ステップ 3 Cisco Unified Presence のバージョンにより、次のいずれかのセクションで TFTP サーバを指定するためのフィールドを見つけます。

- Cisco Jabber セキュリティ設定（Cisco Jabber Security Settings）
- CUPC グローバル設定（CUPC Global Settings）

ステップ 4 次のフィールドで、プライマリおよびバックアップ TFTP サーバの IP アドレスを指定します。

- プライマリ TFTP サーバ（Primary TFTP Server）
- バックアップ TFTP サーバ（Backup TFTP Server）
- バックアップ TFTP サーバ（Backup TFTP Server）

ステップ 5 [保存（Save）] を選択します。

インスタント メッセージおよびプレゼンスの設定

インスタントメッセージおよびプレゼンス機能は、Cisco Jabber for Windows 対応の基本機能です。ユーザは、インスタントメッセージを送受信し、アベイラビリティステータスを公開および表示することができます。

導入を開始するには、まず、インスタントメッセージおよびプレゼンスを設定します。チャットおよびアベイラビリティ ステータスの機能を正常に設定した後は、その他のサービスを追加し、音声およびビデオまたはボイスメールなどの追加機能を設定することで、導入を拡張できます。

メッセージ設定の有効化

Cisco Unified Presence でインスタント メッセージを有効にして、インスタント メッセージの設定を指定するには、このタスクの手順を実行します。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified Presence の管理（Cisco Unified Presence Administration）] インターフェイスを開きます。

ステップ 2 [メッセージング（Messaging）] > [設定（Settings）] を選択します。

ステップ 3 次のオプションを選択します。

- インスタント メッセージを有効にする（Enable instant messaging）
- クライアントでのインスタント メッセージ履歴のログ記録を可能にする（Allow clients to log instant message history）

ステップ 4 [保存（Save）] を選択します。

関連トピック

「How to Configure the Instant Messaging Settings on Cisco Unified Presence」

機能割り当ての指定

Cisco Jabber for Windows ユーザにインスタント メッセージおよびプレゼンス機能を提供するには、このタスクの手順を実行します。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理（Cisco Unified Communications Manager Administration）] インターフェイスを開きます。

ステップ 2 [システム（System）] > [ライセンス（Licensing）] > [機能割り当て（Capabilities Assignment）] を選択します。
[機能割り当ての検索/一覧表示（Find and List Capabilities Assignments）] ウィンドウが開きます。

ステップ 3 [機能割り当ての検索場所（Find Capabilities Assignment where）] フィールドで適切なフィルタを指定し、[検索（Find）] を選択してユーザのリストを取得します。

ステップ 4 対象のユーザをリストから選択します。

[機能割り当ての設定（Capabilities Assignment Configuration）] ウィンドウが開きます。

ステップ 5 [機能割り当ての設定（Capabilities Assignment Configuration）] セクションで次の両方を選択します。

- CUP を有効にする（Enable CUP）
- CUPC を有効にする（Enable CUPC）

ステップ 6 [保存（Save）] を選択します。

プレゼンス登録要求に関するプロンプトの設定

組織内の連絡先からのプレゼンス登録要求に関するプロンプトを有効または無効にすることができます。

Cisco Jabber for Windows はユーザに対して常に、組織外部の連絡先からのプレゼンス登録要求を許可するように求めるプロンプトを表示します。

ユーザは、次のように Cisco Jabber for Windows でプライバシー設定を指定します。

組織内部

Cisco Jabber for Windows ユーザは、組織内部の連絡先を許可またはブロックすることを選択できます。

- ユーザがプレゼンス登録要求の許可を選択した場合、かつ
  - [確認プロンプトなしで、ユーザが他のユーザのプレゼンス ステータスを表示できるようにする（Allow users to view the availability of other users without being prompted for approval）] を選択した場合、Cisco Jabber for Windows はユーザにプロンプトを表示せずにすべてのプレゼンス登録要求を自動的に受け入れます。
  - [確認プロンプトなしで、ユーザが他のユーザのプレゼンスステータスを表示できるようにする（Allow users to view the availability of other users without being prompted for approval）] を選択しなかった場合、Cisco Jabber for Windows はユーザに対してすべてのプレゼンス登録要求に関するプロンプトを表示します。
- ユーザが連絡先をブロックすることを選択した場合、既存の連絡先だけがそれぞれのアベイラビリティ ステータスを確認できます。 つまり、ユーザのプレゼンスにすでに登録されている連絡先だけが、それぞれのアベイラビリティ ステータスを確認できます。

（注） 組織内の連絡先を検索する際に、ユーザは組織内のすべてのユーザの一時的なアベイラビリティ ステータスを確認できます。 ただし、ユーザ A がユーザ B をブロックすると、ユーザ B はユーザ A の一時的なアベイラビリティ ステータスを検索リスト内で確認できません。

組織外部

Cisco Jabber for Windows ユーザは、組織外部の連絡先に対して次のオプションを選択できます。

- Cisco Jabber for Windows が、外部の連絡先に対して各プレゼンス登録要求に関するプロンプトを表示するようにする。
- 既存の連絡先だけにアベイラビリティ ステータスが表示されるように、すべての連絡先をブロックする。 つまり、ユーザのプレゼンスにすでに登録されている連絡先だけが、それぞれのアベイラビリティ ステータスを確認できます。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified Presence の管理（Cisco Unified Presence Administration）] インターフェイスを開きます。

ステップ 2 [プレゼンス（Presence）] > [設定（Settings）] を選択します。

[プレゼンスの設定（Presence Settings）] ウィンドウが開きます。

ステップ 3 [確認プロンプトなしで、ユーザが他のユーザのプレゼンス ステータスを表示できるようにする（Allow users to view the availability of other users without being prompted for approval）] を選択してプロンプトを無効にし、組織内のすべてのプレゼンス登録要求を自動的に受け入れます。
このオプションには、次の値があります。

オン

Cisco Jabber for Windows は、ユーザに対してプレゼンス登録要求に関するプロンプトを表示しません。 Cisco Jabber for Windows は、ユーザにプロンプトを表示せずに自動的にすべてのプレゼンス登録要求を受け入れます。

オフ

Cisco Jabber for Windows は、ユーザに対してプレゼンス登録要求の許可を求めるプロンプトを表示します。 この設定により、ユーザは、組織内の他のユーザに対してアベイラビリティ ステータスの表示を許可するように要求されます。

ステップ 4 [保存（Save）] を選択します。

連絡先リストの一括インポート

一括割り当てツール（BAT）を使用して、ユーザ連絡先リストを Cisco Unified Presence にインポートできます。

連絡先リストの一括インポートの手順については、『*Deployment Guide for Cisco Unified Presence Release 8.6*』の「*Bulk Import of User Contact Lists*」を参照してください。

関連トピック

「Bulk Import of User Contact Lists」

予定表イベントに対する自動アベイラビリティ ステータスの有効化

予定表イベントに対するプレゼンス ステータスの自動更新を有効にするには、Cisco Jabber for Windows ユーザが個々に [Cisco Unified Presence ユーザ オプション（Cisco Unified Presence User Options）] インターフェイスで初期設定を有効にする必要があります。

重要

- この初期設定はデフォルトでは無効になっています。
- このリリースでは、各 Cisco Jabber for Windows ユーザが導入後、個別に初期設定を有効にする必要があります。 管理者が、複数のユーザに対して一括でこの初期設定を有効にすることはできません。

サポートされているブラウザのリストを含め、[Cisco Unified Presence ユーザ オプション（Cisco Unified Presence User Options）] インターフェイスの詳細については、適切な Cisco Unified Communications IM and Presence のマニュアルを参照してください。

このトピックでは、Cisco Jabber for Windows ユーザが、予定表イベントに対するプレゼンス ステータスの自動更新を有効にするために、導入後に実行する必要のある作業について説明します。

手順

ステップ 1 Cisco Jabber for Windows ユーザに提供する必要のある情報を収集するには、次の手順を実行します。

a) [Cisco Unified Presence ユーザ オプション（Cisco Unified Presence User Options）] インターフェイスの URL を決定します。
この URL の形式は、https://*server_name*:*port_number*/cupuser/showHome.do となります。

b) 適切な Cisco Jabber for Windows ユーザに [Cisco Unified Presence ユーザ オプション（Cisco Unified Presence User Options）] インターフェイスの URL とクレデンシャルを提供します。

ステップ 2 Cisco Jabber for Windows ユーザに次の手順を実行するよう、指示します。

a) [Cisco Unified Presence ユーザ オプション（Cisco Unified Presence User Options）] インターフェイスにログインします。

b) [ユーザ オプション（User Options）] > [初期設定（Preferences）] を選択します。
[初期設定（Preferences）] ページが開きます。

c) [初期設定（Preferences）] ページの [予定表の設定（Calendar Settings）] セクションに移動します。

d) [自分のプレゼンスステータスに予定表情報を含める（Include Calendar information in my Presence Status）] フィールドのドロップダウン メニューから [オン（On）] を選択します。

e) [保存（Save）] を選択します。

f) [Cisco Unified Presence ユーザ オプション（Cisco Unified Presence User Options）] インターフェイスからログアウトし、インターフェイスを閉じます。

これで、アベイラビリティ ステータスが予定表に統合されます。 予定表にミーティングがスケジュールされている場合、そのミーティングが開始されると、Cisco Jabber for Windows 内のステータスが自動的に [ミーティング中（In a meeting）] に設定されます。

関連トピック

『User Guide for Cisco Unified Presence』

ユニファイド コミュニケーションの設定

ユニファイド コミュニケーションを設定すると、Cisco Jabber for Windows の音声およびビデオ機能が有効になります。

はじめる前に

- 付加ライセンスの情報を含め、Cisco Unified Communications Manager ライセンス要件を確認します。
- Cisco Unified Communications Manager に関するデバイス名の設定ガイドラインを確認します。

ソフトフォン デバイスの作成

ソフトウェア フォンは、コンピュータを介して音声およびビデオを送受信するための機能を Cisco Jabber for Windows に提供します。

SIP プロファイルの作成

ソフトウェア フォン デバイスを作成するには、まず、ビデオ デスク共有を有効にできるように SIP プロファイルを作成します。 Client Service Framework（CSF）デバイスまたはソフトウェア フォン デバイスには、SIP プロファイルが必要です。 ただし、デフォルトの SIP プロファイルを編集したり、設定したりすることはできません。 この理由から、新規の SIP プロファイルを作成する必要があります。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理（Cisco Unified CM Administration）] インターフェイスを開きます。

ステップ 2 [デバイス（Device）] > [デバイスの設定（Device Settings）] > [SIP プロファイル（SIP Profile）] を選択します。
[SIP プロファイルの検索/一覧表示（Find and List SIP Profiles）] ウィンドウが開きます。

ステップ 3 次のいずれかを実行し、新規の SIP プロファイルを作成します。

- デフォルトの SIP プロファイルを見つけて、編集可能なコピーを作成します。
- [新規追加（Add New）] を選択し、新規の SIP プロファイルを作成します。

関連トピック

「8.6.x: SIP Profile Configuration」
「9.0.x: SIP profile setup」

ビデオ デスクトップ共有の設定

Cisco Unified Communications Manager は、Binary Floor Control Protocol（BFCP）を介してビデオ デスクトップ共有機能を提供します。 Cisco Jabber for Windows ユーザにビデオ デスクトップ共有機能を提供するには、適切な CSF デバイスで BFCP を有効にする必要があります。

（注） Cisco Jabber for Windows は、ソフトウェア フォン デバイスでのみビデオ デスクトップ共有をサポートします。 デスクフォンデバイスでは、Cisco Jabber for Windows とのビデオ デスクトップ共有を有効にできません。

重要 ハイブリッド クラウドベース導入では、Cisco WebEx と Cisco Unified Communications Manager の両方ともデスクトップ共有機能を提供します。

- Cisco Jabber for Windows ユーザがインスタント メッセージ セッション中にデスクトップ共有セッションを開始した場合は、Cisco WebEx によってデスクトップ共有機能が提供されます。
- Cisco Jabber for Windows ユーザが音声またはビデオ会話中にデスクトップ共有セッションを開始すると、Cisco Unified Communications Manager によってデスクトップ共有機能が提供されます。

関連トピック

「Presentation Sharing with the Binary Floor Control Protocol」

バージョン 8.6.1 でのビデオ デスクトップ共有の設定

Cisco Unified Communications Manager 8.6.1 またはそれ以前のバージョンでビデオ デスクトップ共有を設定するには、SIP プロファイルで BFCP を有効にします。

（注） ビデオ デスクトップ共有の設定を移行することはできません。 Cisco Unified Communications Manager 8.6.1 でビデオ デスクトップ共有を設定し、Cisco Unified Communications Manager 8.6.2 にアップグレードした場合は、バージョン 8.6.2 でビデオ デスクトップ共有を設定する必要があります。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理（Cisco Unified Communications Manager Administration）] インターフェイスを開きます。

ステップ 2 次の手順に従って、SIP プロファイルでビデオ デスクトップ共有を有効にします。

- 個々のプロファイルについては、次の手順を実行します。

  1. [デバイス（Device）] > [デバイスの設定（Device Settings）] > [SIP プロファイル（SIP Profile）] を選択します。
  2. SIP プロファイルを選択します。
  3. [トランク固有の設定（Trunk Specific Configuration）] セクションでは、[BFCP を使用するプレゼンテーション共有を許可（Allow Presentation Sharing Using BFCP）] を選択します。
  4. [保存（Save）] を選択します。

- 複数のプロファイルについては、次の手順を実行します。

  1. [一括管理（Bulk Administration）] > [電話（Phones）] > [電話のエクスポート（Export Phones）] > [すべての詳細（All Details）] を選択します。
  2. [一括管理（Bulk Administration）] > [ファイルのアップロード/ダウンロード（Upload/Download Files）] を選択し、エクスポートされた CSV ファイルをダウンロードします。
  3. 任意のエディタで CSV ファイルを開きます。
  4. BFCP を使用するプレゼンテーション共有を許可（Allow presentation sharing using BFCP）という列を CSV ファイルに挿入します。
  5. 必要なすべてのデバイスに対する列の値を Y に設定します。
  6. CSV ファイルを保存します。
  7. [一括管理（Bulk Administration）] > [電話（Phones）] > [電話の挿入（Insert Phones）] を選択します。
  8. [既存の設定の上書き（Override the existing configuration）] オプションを選択します。
  9. CSV ファイルをインポートします。
  10. [今すぐ実行（Run Immediately）] を選択します。
  11. [送信（Submit）] を選択します。

バージョン 8.6.2 でのビデオ デスクトップ共有の設定

Cisco Unified Communications Manager 8.6.2 以降でビデオ デスクトップ共有を設定するには、SIP プロファイルで BFCP を有効にする COP ファイルを適用します。 COP ファイルは cmterm-bfcp-e.8-6-2.cop.sgn であり、Cisco Jabber for Windows 管理パッケージの一部として使用できます。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理（Cisco Unified Communications Manager Administration）] インターフェイスを開きます。

ステップ 2 cmterm-bfcp-e.8-6-2.cop.sgn をアップロードして適用します。

ステップ 3 次のようにサーバを再起動します。

a) [Cisco Unified OS の管理（Cisco Unified OS Administration）] インターフェイスを開きます。
b) [設定（Settings）] > [バージョン（Version）]を選択します。
c) [リスタート（Restart）] を選択します。
d) プレゼンテーション サーバから始まる、クラスタ内のノードごとに前述の手順を繰り返します。

ステップ 4 次のように SIP プロファイルでビデオ デスクトップ共有を有効にします。

- 個々のプロファイルの場合、次の手順を実行します。

  1. [デバイス（Device）] > [デバイスの設定（Device Settings）] > [SIP プロファイル（SIP Profile）] を選択します。
  2. SIP プロファイルを選択します。
  3. [トランク固有の設定（Trunk Specific Configuration）] セクションで [BFCP を使用したプレゼンテーション共有を許可する（Allow Presentation Sharing Using BFCP）] を選択します。
  4. [保存（Save）] を選択します。

- 複数のプロファイルの場合、次の手順を実行します。

  1. [一括管理（Bulk Administration）] > [電話（Phones）] > [電話のエクスポート（Export Phones）] > [すべての詳細（All Details）] を選択します。
  2. [一括管理（Bulk Administration）] > [ファイルのアップロード/ダウンロード（Upload/Download Files）] を選択し、エクスポートした CSV ファイルをダウンロードします。
  3. 任意のエディタを使用して CSV ファイルを開きます。
  4. Allow presentation sharing using BFCP というカラムを CSV ファイルに挿入します。
  5. すべての必須デバイスに対して、カラムの値を Y に設定します。
  6. CSV ファイルを保存します。
  7. [一括管理（Bulk Administration）] > [電話（Phones）] > [電話の挿入（Insert Phones）] を選択します。
  8. [既存の設定を上書きする（Override the existing configuration）] オプションを選択します。
  9. CSV ファイルをインポートします。
  10. [すぐに実行（Run Immediately）] を選択します。
  11. [送信（Submit）] を選択します。

CSF デバイスの作成

CSF デバイスは、ソフトウェア フォン機能を Cisco Jabber for Windows に提供します。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理（Cisco Unified CM Administration）] インターフェイスを開きます。

ステップ 2 [デバイス（Device）] > [電話（Phone）] を選択します。
[電話の検索/一覧表示（Find and List Phones）] ウィンドウが開きます。

ステップ 3 [新規追加（Add New）] を選択します。

ステップ 4 [電話のタイプ（Phone Type）] ドロップダウン リストから [Cisco Unified Client Services Framework] を選択し、[次へ（Next）] を選択します。

ステップ 5 [電話の設定（Phone Configuration）] ウィンドウで適切な設定を指定します。
[電話の設定（Phone Configuration）] ウィンドウでの設定の詳細については、Cisco Unified Communications Manager のマニュアルを参照してください。

ステップ 6 [SIP プロファイル（SIP Profile）] ドロップダウン リストから、ビデオ デスクトップ共有を有効にした SIP プロファイルを選択します。

ステップ 7 [保存（Save）] を選択します。
デバイスが正常に追加されたかどうかを通知するメッセージが表示されます。[電話の設定（Phone Configuration）] ウィンドウの [割り当て情報（Association Information）] セクションが使用可能になります。

次の作業

デバイスに電話番号を追加し、設定を適用します。

関連トピック

「Phone Configuration Settings」

デバイスへの電話番号の追加

Cisco Unified Communications Manager で、電話番号をデバイスに追加する必要があります。 このトピックでは、デバイスを作成した後で、[デバイス（Device）] > [電話（Phone）] メニュー オプションを使用して電話番号を追加する手順を示します。 このメニューオプションでは、電話機モデルまたはCTIルートポイントに適用する設定のみが表示されます。 電話番号を設定するさまざまなオプションの詳細については、Cisco Unified Communications Manager のマニュアルを参照してください。

手順

ステップ 1 [電話の設定（Phone Configuration）] ウィンドウの [割り当て情報（Association Information）] セクションを見つけます。

ステップ 2 [新規 DN を追加（Add a new DN）] を選択します。
[電話番号の設定（Directory Number Configuration）] ウィンドウが開きます。

ステップ 3 [電話番号（Directory Number）] フィールドに電話番号を指定します。

ステップ 4 必要に応じて、その他の必要な設定をすべて指定します。

ステップ 5 次の手順に従って、エンド ユーザと電話番号を関連付けます。

a) [回線に関連付けられているユーザ（Users Associated with Line）] セクションを見つけます。
b) [エンド ユーザの関連付け（Associate End Users）] を選択します。
[ユーザの検索/一覧表示（Find and List Users）] ダイアログボックスが開きます。
c) [ユーザの検索場所（Find User where）] フィールドで適切なフィルタを指定し、[検索（Find）] を選択してユーザのリストを取得します。
d) 対象のユーザをリストから選択します。
e) [選択項目の追加（Add Selected）] を選択します。
選択したユーザがボイスメール プロファイルに追加されます。

ステップ 6 [保存（Save）] を選択します。

ステップ 7 [設定の適用（Apply Config）] を選択します。
[設定の適用（Apply Configuration）] ウィンドウが開きます。

ステップ 8 [設定の適用（Apply Configuration）] ウィンドウのプロンプトに従って、設定を適用します。

関連トピック

「8.6.x: Directory Number Configuration Settings」
「9.0.x: About directory number setup」

デスクフォンのデバイスの作成

Cisco Jabber for Windows ユーザは、コンピュータを使用してデスクフォンを制御し、音声コールを発信できます。 このトピックでは、Cisco Unified Communications Manager でデスクフォンのデバイスを作成する方法について説明します。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理（Cisco Unified CM Administration）] インターフェイスを開きます。

ステップ 2 [デバイス（Device）] > [電話（Phone）] を選択します。

[電話の検索と一覧表示（Find and List Phones）] ウィンドウが開きます。

ステップ 3 [新規追加（Add New）] を選択します。

ステップ 4 [電話タイプ（Phone Type）] ドロップダウン リストから適切なデバイスを選択し、[次へ（Next）] を選択します。
[電話の設定（Phone Configuration）] ウィンドウが開きます。

ステップ 5 [デバイス情報（Device Information）] セクションで次の手順を実行します。

a) [説明（Description）] フィールドにわかりやすい説明を入力します。
Cisco Jabber for Windows によってデバイスの説明が表示されます。 Cisco Jabber for Windows ユーザが同一モデルのデバイスを複数持っている場合、この説明が複数のデバイス間の違いを見分けるのに役立ちます。

b) [CTI からのデバイスの制御を許可する（Allow Control of Device from CTI）] を選択します。
[CTI からのデバイスの制御を許可する（Allow Control of Device from CTI）] を選択しない場合、Cisco Jabber for Windows ユーザはデスクフォンを制御できません。

ステップ 6 デスクフォン のビデオ機能を有効にするには、次の手順を実行します。

a) [プロダクト固有の設定（Product Specific Configuration Layout）] セクションを見つけます。

b) [ビデオ機能（Video Capabilities）] ドロップダウン リストから [有効（Enabled）] を選択します。

デスクフォンのビデオの詳細については、「デスク フォン ビデオの設定」を参照してください。

ステップ 7 必要に応じて、[電話の設定（Phone Configuration）] ウィンドウでその他すべての設定を指定します。
[電話の設定（Phone Configuration）] ウィンドウでの設定の詳細については、Cisco Unified Communications Manager のマニュアルを参照してください。

ステップ 8 [保存（Save）] を選択します。
デバイスが正常に追加されたかどうかを通知するメッセージが表示されます。[アソシエーション情報（Association Information）] セクションが [電話の設定（Phone Configuration）] ウィンドウで利用可能になります。

次の作業

ディレクトリ番号をデバイスに追加し、設定を適用します。

関連トピック

「Phone Configuration Settings」

デスク フォン ビデオの設定

デスクフォン のビデオ機能を使用すると、ユーザは Cisco Jabber for Windows を通じてコンピュータの デスクフォン デバイスに送られたビデオを受信することができます。

デスク フォン ビデオのセットアップ

デスクフォン ビデオをセットアップするには、次の手順を実行する必要があります。

1. デスクフォン デバイスのコンピュータ ポートに、コンピュータを物理的に接続します。

   Cisco Jabber for Windows がデバイスへの接続を確立できるよう、コンピュータ ポートを通じてデスクフォン デバイスとコンピュータを物理的に接続する必要があります。 デスクフォン デバイスへのワイヤレス接続では、デスクフォン のビデオ機能は使用できません。

2. Cisco Unified Communications Manager の [電話の設定（Phone Configuration）] ウィンドウで、デスクフォン デバイスのビデオを有効にします。

   方法については、「デスクフォンのデバイスの作成」のトピックを参照してください。

3. コンピュータに Cisco Medianet をインストールします。

   Cisco Medianet によって、Cisco Jabber for Windows が次の操作を実行できるドライバが提供されます。

   - デスクフォン デバイスを検出する。
   - CAST プロトコルを使用し、デスクフォン への接続を確立して保持する。

デスク フォン ビデオに関する考慮事項

デスク フォン ビデオ機能を Cisco Jabber for Windows ユーザに対してプロビジョニングする前に、次の考慮事項と制限事項を確認してください。

- Cisco Unified IP Phone 9971 など、ビデオ カメラが接続されたデバイスでは、デスク フォン ビデオ機能は使用できません。
- CTI に対応していないデバイスでは、デスク フォン ビデオ機能は使用できません。
- BFCP プロトコルを使用したビデオ デスクトップ共有は、デスク フォン ビデオでは使用できません。
- SCCP を使用するエンドポイントで、ビデオだけを受信することはできません。 SCCP エンドポイントは、ビデオを送受信する必要があります。 SCCP がビデオを送信しないインスタンスでは、オーディオのみのコールになります。

デバイスへの電話番号の追加

Cisco Unified Communications Manager で、電話番号をデバイスに追加する必要があります。 このトピックでは、デバイスを作成した後で、[デバイス（Device）] > [電話（Phone）] メニュー オプションを使用して電話番号を追加する手順を示します。 このメニュー オプションでは、電話機モデルまたは CTI ルート ポイントに適用する設定のみが表示されます。 電話番号を設定するさまざまなオプションの詳細については、Cisco Unified Communications Manager のマニュアルを参照してください。

手順

ステップ 1 [電話の設定（Phone Configuration）] ウィンドウの [割り当て情報（Association Information）] セクションを見つけます。

ステップ 2 [新規 DN を追加（Add a new DN）] を選択します。
[電話番号の設定（Directory Number Configuration）] ウィンドウが開きます。

ステップ 3 [電話番号（Directory Number）] フィールドに電話番号を指定します。

ステップ 4 必要に応じて、その他の必要な設定をすべて指定します。

ステップ 5 次の手順に従って、エンド ユーザと電話番号を関連付けます。

a) [回線に関連付けられているユーザ（Users Associated with Line）] セクションを見つけます。
b) [エンド ユーザの関連付け（Associate End Users）] を選択します。
[ユーザの検索/一覧表示（Find and List Users）] ダイアログボックスが開きます。
c) [ユーザの検索場所（Find User where）] フィールドで適切なフィルタを指定し、[検索（Find）] を選択してユーザのリストを取得します。
d) 対象のユーザをリストから選択します。
e) [選択項目の追加（Add Selected）] を選択します。
選択したユーザがボイスメール プロファイルに追加されます。

ステップ 6 [保存（Save）] を選択します。

ステップ 7 [設定の適用（Apply Config）] を選択します。
[設定の適用（Apply Configuration）] ウィンドウが開きます。

ステップ 8 [設定の適用（Apply Configuration）] ウィンドウのプロンプトに従って、設定を適用します。

関連トピック

「8.6.x: Directory Number Configuration Settings」
「9.0.x: About directory number setup」

ビデオ レート アダプテーションの有効化

Cisco Jabber for Windows では、ビデオ レート アダプテーションを使用して、最適なビデオ品質をネゴシエートします。 ビデオ レート アダプテーションは、ネットワークの状況に基づいてビデオ品質を動的に向上または低下させます。

ビデオ レート アダプテーションを使用するには、Cisco Unified Communications Manager で Real-Time Transport Control Protocol（RTCP）を有効にする必要があります。

（注） ソフトウェア フォン デバイスでは、デフォルトで RTCP が有効になります。 ただし、デスクフォン デバイスでは RTCP を有効にする必要があります。

共通の電話プロファイルでの RTCP の有効化

共通の電話プロファイルで RTCP を有効にして、そのプロファイルを使用するすべてのデバイスでビデオ レート アダプテーションを有効にすることができます。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理（Cisco Unified CM Administration）] インターフェイスを開きます。

ステップ 2 [デバイス（Device）]>[デバイスの設定（Device Settings）]>[共通の電話プロファイル（Common Phone Profile）] を選択します。
[共通の電話プロファイルの検索/一覧表示（Find and List Common Phone Profiles）] ウィンドウが開きます。

ステップ 3 [共通の電話プロファイルの検索場所（Find Common Phone Profile where）] フィールドで適切なフィルタを指定し、[検索（Find）] を選択してプロファイルのリストを取得します。

ステップ 4 対象のプロファイルをリストから選択します。
[共通の電話プロファイルの設定（Common Phone Profile Configuration）] ウィンドウが開きます。

ステップ 5 [プロダクト固有の設定（Product Specific Configuration Layout）] セクションを見つけます。

ステップ 6 [RTCP] ドロップダウン リストから [有効（Enabled）] を選択します。

ステップ 7 [保存（Save）] を選択します。

関連トピック

「8.6.x: Common Phone Profile Configuration」
「9.0.x: Common phone profile setup」

デバイス設定での RTCP の有効化

共通の電話プロファイルの代わりに、特定のデバイス設定でRTCPを有効にすることができます。特定のデバイス設定によって、共通の電話プロファイルで指定した設定は無効になります。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理（Cisco Unified CM Administration）] インターフェイスを開きます。

ステップ 2 [デバイス（Device）] > [電話（Phone）] を選択します。
[電話の検索/一覧表示（Find and List Phones）] ウィンドウが開きます。

ステップ 3 [電話の検索場所（Find Phone where）] フィールドで適切なフィルタを指定し、[検索（Find）] を選択して電話機のリストを取得します。

ステップ 4 対象の電話機をリストから選択します。

[電話の設定（Phone Configuration）] ウィンドウが開きます。

ステップ 5 [プロダクト固有の設定（Product Specific Configuration Layout）] セクションを見つけます。

ステップ 6 [RTCP] ドロップダウン リストから [有効（Enabled）] を選択します。

ステップ 7 [保存（Save）] を選択します。

関連トピック

「8.6.x: Phone Configuration Settings」

「9.0.x: Phone setup」

CTI ゲートウェイのセットアップ

Cisco Jabber for Windows には、Cisco Unified Communications Manager と通信し、デスクフォン制御などの特定の機能を実行するために CTI ゲートウェイが必要です。

CTI ゲートウェイ サーバの追加

CTI ゲートウェイを設定するには、まず、Cisco Unified Presence で CTI ゲートウェイ サーバを追加します。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified Presence の管理（Cisco Unified Presence Administration）] インターフェイスを開きます。

ステップ 2 [アプリケーション（Application）] > [Cisco Jabber] > [CTI ゲートウェイ サーバ（CTI Gateway Server）] を選択します。

（注） Cisco Unified Presence の一部バージョンでは、このパスが [アプリケーション（Application）] > [Cisco Unified Personal Communicator] > [CTI ゲートウェイ サーバ（CTI Gateway Server）] となります。

[CTI ゲートウェイ サーバの検索と一覧表示（Find and List CTI Gateway Servers）] ウィンドウが開きます。

ステップ 3 [新規追加（Add New）] を選択します。
[CTI ゲートウェイ サーバの設定（CTI Gateway Server Configuration）] ウィンドウが開きます。

ステップ 4 [CTI ゲートウェイ サーバの設定（CTI Gateway Server Configuration）] ウィンドウで、必要な詳細を指定します。

ステップ 5 [保存（Save）] を選択します。

関連トピック

「Configuring CTI Gateway Server Names and Addresses」

CTI ゲートウェイ プロファイルの作成

CTI ゲートウェイ サーバを追加した後は、CTI ゲートウェイ プロファイルを作成し、そのサーバをプロファイルに追加する必要があります。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified Presence の管理（Cisco Unified Presence Administration）] インターフェイスを開きます。

ステップ 2 [アプリケーション（Application）] > [Cisco Jabber] > [CTI ゲートウェイ プロファイル（CTI Gateway Profile）] を選択します。

（注） Cisco Unified Presence の一部バージョンでは、このパスが [アプリケーション（Application）] > [Cisco Unified Personal Communicator] > [CTI ゲートウェイ プロファイル（CTI Gateway Profile）] となります。

[CTI ゲートウェイ プロファイルの設定（CTI Gateway Profile Configuration）] ウィンドウが開きます。

ステップ 3 [CTI ゲートウェイ プロファイルの設定（CTI Gateway Profile Configuration）] ウィンドウで、必要な詳細を指定します。

ステップ 4 [プロファイルにユーザを追加（Add Users to Profile）] を選択し、プロファイルに適切なユーザを追加します。

ステップ 5 [保存（Save）] を選択します。

関連トピック

「Creating CTI Gateway Profiles」

ユーザの割り当ての設定

Cisco Unified Communications Manager 上のソフトウェア フォン デバイスおよびデスクフォン デバイスにユーザを関連付ける必要があります。 ユーザをデバイスに関連付けると、ユーザはそれらのデバイスにアクセスし、音声およびビデオ コールを送受信できるようになります。

ユーザをデバイスに関連付けるほか、ユーザを適切なユーザ グループに追加することも必要です。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理（Cisco Unified CM Administration）] インターフェイスを開きます。

ステップ 2 [ユーザ管理（User Management）] > [エンド ユーザ（End User）] を選択します。

[ユーザの検索と一覧表示（Find and List Users）] ウィンドウが開きます。

ステップ 3 [ユーザの検索場所（Find User where）] フィールドで適切なフィルタを指定し、[検索（Find）] を選択してユーザのリストを取得します。

ステップ 4 対象のユーザをリストから選択します。
[エンド ユーザの設定（End User Configuration）] ウィンドウが開きます。

ステップ 5 [デバイス情報（Device Information）] セクションを見つけます。

ステップ 6 [デバイスの割り当て（Device Association）] を選択します。
[ユーザ デバイス割り当て（User Device Association）] ウィンドウが開きます。

ステップ 7 ユーザを割り当てるデバイスを選択します。

ステップ 8 [選択/変更の保存（Save Selected/Changes）] を選択します。

ステップ 9 [ユーザ管理（User Management）] > [エンド ユーザ（End User）] を選択し、[ユーザの検索/一覧表示（Find and List Users）] ウィンドウに戻ります。

ステップ 10 リストから、同じユーザを見つけて選択します。
[エンド ユーザの設定（End User Configuration）] ウィンドウが開きます。

ステップ 11 [権限情報（Permissions Information）] セクションを見つけます。

ステップ 12 [ユーザ グループに追加（Add to User Group）] を選択します。
[ユーザ グループの検索/一覧表示（Find and List User Groups）] ダイアログ ボックスが開きます。

ステップ 13 ユーザを割り当てるグループを選択します。
少なくとも、次のグループにユーザを割り当てる必要があります。

- Standard CCM End Users
- Standard CTI Enabled

特定の電話機モデルには、次のような追加グループが必要です。

- Cisco Unified IP Phone 9900 または 8900 シリーズ。[標準 CTI による接続時の転送および会議をサポートする電話の制御（Standard CTI Allow Control of Phones supporting Connected Xfer and conf）] を選択します。
- Cisco Unified IP Phone 6900 シリーズ。[標準 CTI によるロールオーバー モードをサポートする電話の制御（Standard CTI Allow Control of Phones supporting Rollover Mode）] を選択します。

ステップ 14 [選択項目の追加（Add Selected）] を選択します。
[ユーザ グループの検索/一覧表示（Find and List User Groups）] ウィンドウが閉じられます。

ステップ 15 [エンド ユーザの設定（End User Configuration）] ウィンドウで [保存（Save）] を選択します。

デバイスのリセット

ソフトウェア フォンとデスクフォンを追加し、それらのデバイスにユーザを関連付けた後は、デバイスをリセットする必要があります。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理（Cisco Unified CM Administration）] インターフェイスを開きます。

ステップ 2 [デバイス（Device）] > [電話（Phone）] を選択します。
[電話の検索/一覧表示（Find and List Phones）] ウィンドウが開きます。

ステップ 3 [電話の検索場所（Find Phone where）] フィールドで適切なフィルタを指定し、[検索（Find）] を選択してデバイスのリストを取得します。

ステップ 4 対象のデバイスをリストから選択します。
[電話の設定（Phone Configuration）] ウィンドウが開きます。

ステップ 5 [割り当て情報（Association Information）] セクションを見つけます。

ステップ 6 適切な電話番号の設定を選択します。
[電話番号の設定（Directory Number Configuration）] ウィンドウが開きます。

ステップ 7 [リセット（Reset）] を選択します。
[デバイス リセット（Device Reset）] ダイアログボックスが開きます。

ステップ 8 [リセット（Reset）] を選択します。

ステップ 9 [閉じる（Close）] を選択して、[デバイス リセット（Device Reset）] ダイアログボックスを閉じます。

CCMCIP プロファイルの作成

Cisco Jabber for Windows では、Cisco Unified Communications Manager からデバイス設定を取得するために CCMCIP プロファイルを必要とします。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified Presence の管理（Cisco Unified Presence Administration）] インターフェイスを開きます。

ステップ 2 [アプリケーション（Application）] > [Cisco Jabber] > [CCMCIP プロファイル（CCMCIP Profile）] を選択します。

（注） Cisco Unified Presence の一部バージョンでは、このパスが [アプリケーション（Application）] > [Cisco Unified Personal Communicator] > [CCMCIP プロファイル（CCMCIP Profile）] となります。

[CCMCIP プロファイルの検索/一覧表示（Find and List CCMCIP Profiles）] ウィンドウが開きます。

ステップ 3 [新規追加（Add New）] を選択します。
[CCMCIP プロファイルの設定（CCMCIP Profile Configuration）] ウィンドウが開きます。

ステップ 4 次のように、CCMCIP プロファイルの設定の詳細を指定します。

a) [名前（Name）] フィールドで、プロファイルの名前を指定します。
b) [プライマリ CCMCIP ホスト（Primary CCMCIP Host）] フィールドで、プライマリ Cisco Unified Communications Manager インスタンスのホスト名または IP アドレスを指定します。
c) [バックアップ CCMCIP ホスト（Backup CCMCIP Host）] フィールドで、バックアップ Cisco Unified Communications Manager インスタンスのホスト名または IP アドレスを指定します。
d) [サーバ証明書の確認（Server Certificate Verification）] は、デフォルト値のままにします。

ステップ 5 次の手順に従って、CCMCIP プロファイルにユーザを追加します。

a) [プロファイルにユーザを追加（Add Users to Profile）] を選択します。
[ユーザの検索/一覧表示（Find and List Users）] ダイアログボックスが開きます。
b) [ユーザの検索場所（Find User where）] フィールドで適切なフィルタを指定し、[検索（Find）] を選択してユーザのリストを取得します。
c) 対象のユーザをリストから選択します。
d) [選択項目の追加（Add Selected）] を選択します。
選択したユーザが CCMCIP プロファイルに追加されます。

ステップ 6 [保存（Save）] を選択します。

関連トピック

「Configuring CCMCIP Profiles」

ボイスメールの設定

ボイスメールを設定すると、Cisco Jabber for Windows ユーザがボイスメール メッセージを取得し、着信音声コールをボイスメール サービスにリダイレクトできるようになります。ボイスメールの設定タスクの一環として、Cisco Jabber for Windows で表示によるボイスメールを有効にするようにメールストアを設定することもできます。

Cisco Unity Connection の設定

このタスクは、Cisco Jabber for Windows を使用した Cisco Unity Connection にボイスメールを設定するために実行する必要のあるタスクの概要を示します。 それぞれの導入要件に固有の設定タスクの詳細については、適切な Cisco Unity Connection のマニュアルを参照してください。

手順

ステップ 1 Cisco Unity Connection で適切なユーザ プロファイルを作成します。

ステップ 2 ユーザに IMAP アクセス権を与えます。

a) Cisco Unity Connection 管理インターフェイスを開きます。
b) [サービス クラス（Class of Service）] を選択します。
[サービス クラスの編集（Edit Class of Service）] ウィンドウが開きます。
c) [ライセンス済み機能（Licensed Features）] セクションを見つけます。
d) [IMAP クライアントやシングル インボックスを使用したボイスメールへのアクセスをユーザに許可する（Allow Users to Access Voice Mail Using an IMAP Client and/or Single Inbox）] を選択します。
e) [メッセージ本文へのアクセスを IMAP ユーザに許可する（Allow IMAP Users to Access Message Bodies）] を選択します。
f) [保存（Save）] を選択します。

関連トピック

「Edit Class of Service」

ボイスメール サーバの追加

Cisco Unified Presence でボイスメール サーバを追加するには、次のタスクの手順を実行します。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified Presence の管理（Cisco Unified Presence Administration）] インターフェイスを開きます。

ステップ 2 [アプリケーション（Application）] > [Cisco Jabber] > [ボイスメール サーバ（Voicemail Server）] を選択します。

（注） Cisco Unified Presence の一部バージョンでは、このパスが [アプリケーション（Application）] > [Cisco Unified Personal Communicator] > [ボイスメール サーバ（Voicemail Server）] となります。

[ボイスメール サーバの検索と一覧表示（Find and List Voicemail Servers）] ウィンドウが開きます。

ステップ 3 [新規追加（Add New）] を選択します。

[ボイスメール サーバの設定（Voicemail Server Configuration）] ウィンドウが開きます。

ステップ 4 [サーバ タイプ（Server Type）] ドロップダウン リストから [Unity Connection] を選択します。

ステップ 5 [ボイスメール サーバの設定（Voicemail Server Configuration）] ウィンドウで、必要な詳細を指定します。

ステップ 6 [保存（Save）] を選択します。

関連トピック

「Configuring Voicemail Server Names and Addresses on Cisco Unified Presence」

メールストアの作成

Cisco Unified Presence でメールストアを作成するには、このタスクの手順を実行します。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified Presence の管理（Cisco Unified Presence Administration）] インターフェイスを開きます。

ステップ 2 [アプリケーション（Application）] > [Cisco Jabber] > [メールストア（Mailstore）] を選択します。

（注） Cisco Unified Presence の一部バージョンでは、このパスが [アプリケーション（Application）] > [Cisco Unified Personal Communicator] > [メールストア（Mailstore）] となります。

[メールストア サーバの検索と一覧表示（Find and List Mailstore Servers）] ウィンドウが開きます。

ステップ 3 [新規追加（Add New）] を選択します。
[メールストアの設定（Mailstore Configuration）] ウィンドウが開きます。

ステップ 4 [メールストアの設定（Mailstore Configuration）] ウィンドウで必要な詳細を指定します。

ステップ 5 [保存（Save）] を選択します。

関連トピック

「Configuring Mailstore Server Names and Addresses on Cisco Unified Presence」

ボイスメール プロファイルの作成

ボイスメール サーバを追加した後は、ボイスメール プロファイルを作成し、そのサーバをプロファイルに追加する必要があります。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified Presence の管理（Cisco Unified Presence Administration）] インターフェイスを開きます。

ステップ 2 [アプリケーション（Application）] > [Cisco Jabber] > [ボイスメール プロファイル（Voicemail Profile）] を選択します。

（注） Cisco Unified Presence の一部バージョンでは、このパスが [アプリケーション（Application）] > [Cisco Unified Personal Communicator] > [ボイスメール プロファイル（Voicemail Profile）] となります。

[ボイスメール プロファイルの検索と一覧表示（Find and List Voicemail Profiles）] ウィンドウが開きます。

ステップ 3 [新規追加（Add New）] を選択します。
[ボイスメール プロファイルの設定（Voicemail Profile Configuration）] ウィンドウが開きます。

ステップ 4 [ボイスメール プロファイルの設定（Voicemail Profile Configuration）] ウィンドウで、必要な詳細を指定します。

ステップ 5 次の手順に従って、ボイスメール プロファイルにユーザを追加します。

a) [プロファイルにユーザを追加（Add Users to Profile）] を選択します。
[ユーザの検索/一覧表示（Find and List Users）] ダイアログボックスが開きます。

b) [ユーザの検索場所（Find User where）] フィールドで適切なフィルタを指定し、[検索（Find）] を選択してユーザのリストを取得します。

c) 対象のユーザをリストから選択します。

d) [選択項目の追加（Add Selected）] を選択します。
選択したユーザがボイスメール プロファイルに追加されます。

ステップ 6 [保存（Save）] を選択します。

関連トピック

「Creating Voicemail Profiles on Cisco Unified Presence」

取得およびリダイレクションの設定

取得およびリダイレクションを設定すると、Cisco Jabber for Windows がクライアントインターフェイスからボイスメールメッセージにアクセスし、着信音声コールをボイスメールサービスにリダイレクトできるようになります。 Cisco Unified Communications Manager で、ボイスメールの取得およびリダイレクションを設定します。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理（Cisco Unified CM Administration）] インターフェイスを開きます。

ステップ 2 ボイスメール パイロットを設定します。

a) [拡張機能（Advanced Features）] > [ボイス メール（Voice Mail）] > [ボイス メール パイロット（Voice Mail Pilot）] を選択します。
[ボイス メール パイロットの検索/一覧表示（Find and List Voice Mail Pilots）] ウィンドウが開きます。

b) [新規追加（Add New）] を選択します。
[ボイス メール パイロットの設定（Voice Mail Pilot Configuration）] ウィンドウが開きます。

c) [ボイス メール パイロットの設定（Voice Mail Pilot Configuration）] ウィンドウで、必要な詳細を指定します。

d) [保存（Save）] を選択します。

ステップ 3 ボイスメール パイロットをボイスメール プロファイルに追加します。

a) [拡張機能（Advanced Features）] > [ボイス メール（Voice Mail）] > [ボイス メール プロファイル（Voice Mail Profile）] を選択します。
[ボイス メール メール プロファイルの検索/一覧表示（Find and List Voice Mail Mail Profiles）] ウィンドウが開きます。

b) [ボイス メールプロファイル名によるボイス メールプロファイルの検索（Find Voice Mail Profile where Voice Mail Profile Name）] フィールドで適切なフィルタを指定し、[検索（Find）] を選択してプロファイルのリストを取得します。

c) 対象のプロファイルをリストから選択します。
[ボイス メール パイロットの設定（Voice Mail Pilot Configuration）] ウィンドウが開きます。

d) [ボイス メール パイロット（Voice Mail Pilot）] ドロップダウン リストからボイスメール パイロットを選択します。

e) [保存（Save）] を選択します。

ステップ 4 電話番号の設定でボイスメール プロファイルを指定します。

a) [デバイス（Device）] > [電話（Phone）] を選択します。
[電話の検索/一覧表示（Find and List Phones）] ウィンドウが開きます。

b) [電話の検索場所（Find Phone where）] フィールドで適切なフィルタを指定し、[検索（Find）] を選択してデバイスのリストを取得します。

c) 対象のデバイスをリストから選択します。
[電話の設定（Phone Configuration）] ウィンドウが開きます。

d) [割り当て情報（Association Information）] セクションを見つけます。

e) 適切なデバイス番号を選択します。
[電話番号の設定（Directory Number Configuration）] ウィンドウが開きます。

f) [電話番号の設定（Directory Number Settings）] セクションを見つけます。

g) [ボイス メール プロファイル（Voice Mail Profile）] ドロップダウン リストからボイスメール プロファイルを選択します。
h) [保存（Save）] を選択します。

「8.6.x: Cisco Voice-Mail Pilot Configuration」
「8.6.x: Voice-Mail Profile Configuration」
「9.0.x: Cisco voice-mail pilot setup」
「9.0.x: Voice-mail profile setup」

Cisco WebEx Meeting Center との統合

Cisco WebEx Meeting Center は、Cisco Jabber for Windows にミーティングおよび会議サービスを提供します。

設定可能な Cisco WebEx Meeting Center 導入のタイプを確認してください。 認証の設定方法を学習し、Cisco Jabber for Windows と Cisco WebEx Meeting Center 間の通信を有効にしてください。

Cisco WebEx Meeting Center との統合

このリリースでは、Cisco Jabber for Windows のオンプレミス導入に、次の 2 種類の Cisco WebEx Meeting Center 統合があります。

- クラウドベース 統合
- ハイブリッド クラウドベース統合

クラウドベース統合

クラウドベース統合は、Cisco WebEx Meeting Center が次のサービスを Cisco Jabber for Windows に提供する環境を指します。

- 参加者チャットや参加者リストなどのデータ。
- 音声およびビデオ機能。

ハイブリッド クラウドベース統合

ハイブリッド クラウドベース統合は、次の環境を指します。

- Cisco WebEx Meeting Center が参加者チャットや参加者リストなどのデータを提供する。
- 会議ブリッジが音声およびビデオ機能を提供する。

Cisco WebEx Meeting Center による認証

Cisco Jabber for Windows では、Cisco WebEx Meeting Center による次のタイプの認証をサポートしています。

直接認証

Cisco Jabber for Windows は、ユーザのクレデンシャルを Cisco WebEx Meeting Center に直接渡すことができます。

直接認証を有効にするには、次の手順を実行します。

1. Cisco WebEx 管理ツール を使用して Cisco WebEx Meeting Center のユーザ アカウントを作成します。

   直接認証シナリオでは、Cisco WebEx Meeting Center が、ユーザのクレデンシャルを検証する必要があります。 ユーザ アカウントには、Cisco Jabber for Windows が認証を試みたときに Cisco WebEx Meeting Center で検証できるよう、クレデンシャルが保持されます。

2. Cisco WebEx Meeting Center ユーザのクレデンシャルを Cisco Jabber for Windows に提供します。

   詳細については、*Cisco WebEx Meeting Center* クレデンシャルの提供を参照してください。

詳細については、Cisco WebEx マニュアルの「*Overview of Loosely Coupled Integration*」を参照してください。

アイデンティティ プロバイダーによる認証

Cisco Jabber for Windows は、Cisco WebEx Meeting Center からアイデンティティ プロバイダーに認証をリダイレクトできます。

アイデンティティ プロバイダーによる認証を有効にするには、次の手順を実行します。

1. 必要に応じてアイデンティティ プロバイダーをセットアップします。

   Cisco Jabber for Windows ユーザが Cisco WebEx Meeting Center による認証を試みると、Cisco Jabber for Windows はその認証をアイデンティティ プロバイダーにリダイレクトします。アイデンティティ プロバイダーはクレデンシャルを検証し、認証トークンを Cisco Jabber for Windows に返します。 Cisco Jabber for Windows はそのトークンを Cisco WebEx Meeting Center に渡して、認証プロセスを完了します。

2. Cisco WebEx Meeting Center ユーザのクレデンシャルを Cisco Jabber for Windows に提供します。

   詳細については、*Cisco WebEx Meeting Center* クレデンシャルの提供を参照してください。

Cisco WebEx メッセンジャー サービスを使用したユーザ アイデンティティの管理の詳細については、Cisco WebEx マニュアルの「*Using SSO with the Cisco WebEx and Cisco WebEx Meeting applications*」を参照してください。

関連トピック

「Overview of Loosely Coupled Integration」

「Using SSO with the Cisco WebEx and Cisco WebEx Meeting applications」
「Overview of Loosely Coupled Integration」
「Using SSO with the Cisco WebEx and Cisco WebEx Meeting applications」

Cisco WebEx Meeting Center クレデンシャルの提供

Cisco WebEx Meeting Center クレデンシャルを Cisco Jabber for Windows に提供するには、次のいずれかの方法を選択します。

- Cisco Jabber for Windows ユーザが、[オプション（Options）] ウィンドウで Cisco WebEx Meeting Center クレデンシャルを個別に指定する。
- Cisco Unified Presence で Web 会議サービスのクレデンシャル ソースを指定する。

Cisco Jabber for Windows での Cisco WebEx Meeting Center クレデンシャルの指定

Cisco Jabber for Windows ユーザは、[オプション（Options）] ウィンドウの [ミーティング（Meetings）] タブで、Cisco WebEx Meeting Center クレデンシャルを指定します。 [オプション（Options）] ウィンドウを開くには、Cisco Jabber for Windows で [ファイル（File）] > [オプション（Options）] を選択します。

Cisco Unified Presence でのクレデンシャル ソースの指定

Cisco Unified Presence でクレデンシャル ソースを指定するには、このタスクの手順を実行します。

制約事項 Cisco WebEx Meeting Center による認証に ID プロバイダーを使用する場合は、Cisco Unified Presence でクレデンシャル ソースを指定できません。

重要 Cisco Unified Presence で指定するクレデンシャルと Cisco WebEx Meeting Center で指定するクレデンシャルを同期するメカニズムはありません。

Cisco Unified Presence でクレデンシャル ソースを指定する場合、それらのクレデンシャルとユーザの Cisco WebEx Meeting Center クレデンシャルを一致させる必要があります。

たとえば、ユーザの Cisco Unified Presence クレデンシャルがユーザの Cisco WebEx Meeting Center クレデンシャルに一致することを指定します。 それによって、ユーザの Cisco Unified Presence クレデンシャルが変更されます。 この変更が反映されるように、ユーザの Cisco WebEx Meeting Center クレデンシャルを更新する必要があります。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified Presence の管理（Cisco Unified Presence Administration）] インターフェイスを開きます。

ステップ 2 [アプリケーション（Application）] > [Cisco Jabber] > [設定（Settings）] を選択します。
Cisco Unified Presence の一部バージョンでは、このパスが [アプリケーション（Application）] > [Cisco Unified Personal Communicator] > [設定（Settings）] となります。

ステップ 3 [Cisco Jabber の設定（Cisco Jabber Settings）] のセクションで、[Web 会議サービスのクレデンシャル ソース（Credentials source for web conferencing service）] ドロップダウン リストから次のいずれかを選択します。

未設定（Not set）

ユーザには、Cisco WebEx Meeting Center クレデンシャルに一致するクレデンシャル ソースがありません。

CUP

ユーザの Cisco Unified Presence クレデンシャルが Cisco WebEx Meeting Center クレデンシャルに一致します。

ボイスメール（Voicemail）

ユーザの Cisco Unity Connection クレデンシャルが Cisco WebEx Meeting Center クレデンシャルに一致します。

ステップ 4 [保存（Save）] を選択します。

Cisco Unified Presence での Cisco WebEx Meeting Center の設定

Cisco Jabber for Windows は、Cisco Unified Presence の会議プロファイルから Cisco WebEx Meeting Center サーバの詳細を取得します。 Cisco WebEx Meeting Center サーバを追加し、そのサーバを会議プロファイルに追加してから、ユーザをプロファイルに追加する必要があります。

会議サーバの追加

Cisco Unified Presence で会議を設定するには、まず、Cisco WebEx Meeting Center サーバの詳細を追加します。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified Presence の管理（Cisco Unified Presence Administration）] インターフェイスを開きます。

ステップ 2 [アプリケーション（Application）] > [Cisco Jabber] > [会議サーバ（Conferencing Server）] を選択します。
Cisco Unified Presence の一部バージョンでは、このパスが [アプリケーション（Application）] > [Cisco Unified Personal Communicator] > [会議サーバ（Conferencing Server）] となります。

ステップ 3 [新規追加（Add New）] を選択します。
[会議サーバの設定（Conferencing Server Configuration）] ウィンドウが開きます。

ステップ 4 次のフィールドで、Cisco WebEx Meeting Center サーバの詳細を指定します。

名前（Name）

設定の名前を入力します。

説明（Description）

任意の説明を入力します。

ホスト名/IP アドレス（Hostname/IP Address）

Cisco WebEx Meeting Center サーバのホスト名を指定します。

（注） IP アドレスではなく、ホスト名を指定する必要があります。

ポート（Port）

Cisco WebEx Meeting Center サーバのポート番号を指定します。

プロトコル（Protocol）

ドロップダウン リストから [HTTPS] を選択します。

サーバ タイプ（Server Type）

ドロップダウン リストから [WebEx] を選択します。

サイト ID（Site ID）

Cisco WebEx Meeting Center のプライマリ サイト ID を指定します。

（注） [サイト ID（Site ID）] フィールドは任意です。 Cisco Jabber for Windows では、Cisco WebEx Meeting Center と統合するためにサイト ID は必要ありません。

パートナー ID（Partner ID）

Cisco WebEx Meeting Center の適切なパートナー ID を指定します。

（注） [パートナー ID（Partner ID）] フィールドは任意です。 Cisco Jabber for Windows では、Cisco WebEx Meeting Center と統合するためにパートナー ID は必要ありません。

ステップ 5 [保存（Save）] を選択します。

会議プロファイルの作成

会議サーバの詳細を指定した後は、会議プロファイルを作成します。 それにより、Cisco Jabber for Windows はプロファイルから Cisco WebEx Meeting Center サーバの詳細を取得し、会議機能にアクセスできます。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified Presence の管理（Cisco Unified Presence Administration）] インターフェイスを開きます。

ステップ 2 [アプリケーション（Application）] > [Cisco Jabber] > [会議プロファイル（Conferencing Profile）] を選択します。
Cisco Unified Presence の一部バージョンでは、このパスが [アプリケーション（Application）] > [Cisco Unified Personal Communicator] > [会議プロファイル（Conferencing Profile）] となります。

ステップ 3 [新規追加（Add New）] を選択します。
[会議プロファイルの設定（Conferencing Profile Configuration）] ウィンドウが開きます。

ステップ 4 次のフィールドで、プロファイルの詳細を指定します。

名前（Name）

設定の名前を入力します。

説明（Description）

任意の説明を入力します。

プライマリ会議サーバ（Primary Conferencing Server）

ドロップダウン リストからプライマリ Cisco WebEx Meeting Center サーバを選択します。

（注） Cisco Jabber for Windows では、[プライマリ会議サーバ（Primary Conferencing Server）] ドロップダウン リストから選択されたサーバのみが使用されます。[バックアップ会議サーバ（Backup Conferencing Server）] ドロップダウン リストからサーバを選択する必要はありません。

サーバ証明書の検証（Server Certificate Verification）

ドロップダウン リストから、次のいずれかを選択します。

- 任意の証明書（Any Certificate）
- 自己署名またはキーストア（Self Signed or Keystore）
- キーストアのみ（Keystore Only）

ステップ 5 [この会議プロファイルをシステムのデフォルトにする（Make this the default Conferencing Profile for the system）] チェックボックスをオンにして、このプロファイルをシステム デフォルトとして設定します。

ステップ 6 次の手順に従って、会議プロファイルにユーザを追加します。

a) [プロファイル内のユーザ（Users in Profile）] セクションで、[プロファイルにユーザを追加（Add Users to Profile）] を選択します。
[ユーザの検索/一覧表示（Find and List Users）] ダイアログボックスが開きます。

b) [検索（Find）] を選択してユーザのリストを取得します。

c) 対象のユーザをリストから選択します。

d) [選択項目の追加（Add Selected）] を選択します。
選択したユーザがプロファイルに追加され、[ユーザの検索/一覧表示（Find and List Users）] ダイアログ ボックスが閉じられます。

ステップ 7 [保存（Save）] を選択します。

Microsoft Office との統合の設定

Cisco Jabber for Windows を Microsoft Office と統合すると、ユーザは、Microsoft Office スイートのアプリケーションで他のユーザとアベイラビリティ ステータスを共有できます。 また、Microsoft Office との統合により、Cisco Jabber for Windows ユーザは、Microsoft Office で他のユーザと簡単にチャットを始め、音声およびビデオ コールを行うことができます。

Microsoft Outlook でのアベイラビリティ ステータスの有効化

Cisco Jabber for Windows と Microsoft Outlook の統合を有効にするには、Microsoft Active Directory で proxyAddresses 属性の値として SIP:user@cupdomain を指定します。 それにより、Cisco Jabber for Windows ユーザは、Microsoft Outlook でアベイラビリティを共有できます。

次の操作で、proxyAddresses 属性を変更できます。

Active Directory ユーザとコンピュータなどの Active Directory 管理ツールを使用する

Active Directory ユーザとコンピュータ管理ツールは、Microsoft Windows Server 2008 以降での属性の編集を可能にします。

ADSchemaWizard.exe ユーティリティを使用する

ADSchemaWizard.exe ユーティリティは、Cisco.com の Cisco Jabber for Windows 管理パッケージで入手できます。 このユーティリティは、各ユーザに proxyAddresses 属性と値 SIP:user@cupdomain が追加されるようにディレクトリを変更する、LDIF ファイルを生成します。

Active Directory ユーザとコンピュータ管理ツールの属性の編集機能をサポートしていない、Microsoft Windows Server 2003 などのサーバでは、ADSchemaWizard.exe ユーティリティを使用してください。 ADSI Edit などのツールを使用して、ADSchemaWizard.exe ユーティリティで適用する変更を検証できます。

ADSchemaWizard.exe ユーティリティには、Microsoft .NET Framework バージョン 3.5 以降が必要です。

Microsoft Windows PowerShell を使用してスクリプトを作成する

Microsoft Outlook でプレゼンスを有効にするためのスクリプトの作成については、適切な Microsoft のマニュアルを参照してください。

Active Directory ユーザとコンピュータ管理ツールを使用し、個々のユーザに対して Microsoft Outlook でのプレゼンスを有効にするには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 Active Directory ユーザとコンピュータ管理ツールを起動します。
Active Directory ユーザとコンピュータ管理ツールを実行するには、管理者権限が必要です。

ステップ 2 メニュー バーから [表示（View）] を選択し、ドロップダウン リストから [拡張機能（Advanced Features）] オプションを選択します。

ステップ 3 Active Directory ユーザとコンピュータ管理ツールで適切なユーザに移動します。

ステップ 4 そのユーザをダブル クリックして、[プロパティ（Properties）] ダイアログボックスを開きます。

ステップ 5 [属性エディタ（Attribute Editor）] タブを選択します。

ステップ 6 [属性（Attributes）] リスト ボックスで proxyAddresses アドレスを見つけて、選択します。

ステップ 7 [編集（Edit）] を選択して [複数の値を持つ文字列エディタ（Multi-valued String Editor）] ダイアログボックスを開きます。

ステップ 8 [追加する値（Value to add）] テキスト ボックスで、値 SIP:user@cupdomain を指定します。
たとえば、SIP:msmith@cisco.com となります。

ここで、user@cupdomain 値はユーザのインスタント メッセージ アドレスです。 cupdomain 値は Cisco Unified Presence のドメインです。

第 3 章

9.0 オンプレミス環境のセットアップ

この章では、Cisco Unified Communications Manager バージョン 9.0 以降を使用した環境のセットアップ手順を示すタスクベースの情報を提供します。

（注） Cisco Unified Communications Manager のインストールと設定に伴うすべてのタスクの情報を記述することは、このマニュアルの範囲を超えています。 この章の目的は、Cisco Jabber for Windows 用に環境をセットアップするために必要なタスクのワークフローを示すことにあります。 詳細情報を確認し、それぞれの導入環境に特有のインストールおよび設定タスクを実行するには、適切な Cisco Unified Communications Manager マニュアルを参照してください。

前提条件

この章内のタスクを開始する前に、次の作業を行う必要があります。

- Cisco Unified Communications Manager をインストールおよび設定する。
- Cisco Unified Communications IM and Presence をインストールおよび設定する。

メモ Cisco Unified Communications Manager および Cisco Unified Communications IM and Presence をインストールするときは、サーバ間の通信を有効にするために必要な詳細を指定します。 この通信には、Cisco Unified Communications Manager と Cisco Unified Communications IM and Presence の間のアベイラビリティ ステータスの同期化を可能にするための SIP パブリッシュ トランクが含まれます。

- セットアップ プロセスの確認，50 ページ
- 基本サービスのアクティブ化および開始，51 ページ
- 環境へのディレクトリの追加，52 ページ
- TFTP サーバの準備，53 ページ

- サービス プロファイルの作成，54 ページ
- インスタント メッセージおよびプレゼンスの設定，55 ページ
- ユニファイド コミュニケーションの設定，62 ページ
- ボイスメールの設定，82 ページ
- Cisco WebEx Meeting Center との統合，88 ページ
- Microsoft Office との統合の設定，93 ページ

セットアップ プロセスの確認

このトピックでは、Cisco Unified Communications Manager バージョン 9.0 以降を使用する環境をセットアップするプロセスの概要を示します。

手順

ステップ 1 基本サービスをアクティブ化して開始します。
基本サービスがアクティブであり、Cisco Unified Communications IM and Presence で実行中であることが必要です。 これらの基本サービスは、Cisco Jabber for Windows が必要とする各種の機能を提供します。

ステップ 2 環境にディレクトリを追加します。
環境にディレクトリを追加すると、次のことが起こります。

- ディレクトリ サーバに存在するユーザ データが Cisco Unified Communications Manager データベースに入力される。
- 環境内でプロファイルに追加できる、また機能をプロビジョニングできる対象のユーザが Cisco Unified Communications Manager に提供される。

ステップ 3 TFTP サーバを準備します。
Cisco Jabber for Windows は、TFTP サーバから設定を取得します。 Cisco Jabber for Windows がこれらの設定を取得できるように、Cisco Unified Communications IM and Presence で TFTP サーバの IP アドレスを指定する必要があります。

ステップ 4 サービス プロファイルを作成します。
複数のユーザに適用できる 1 つのサービス プロファイルを作成します。 サービス プロファイルには、ユーザにプロビジョニングする各種サービスの設定の詳細が含まれます。 たとえば、サービス プロファイルには、プライマリ ボイスメール サーバ、セカンダリ ボイスメール サーバ、およびターシャリ ボイスメール サーバを指定できます。

注目 Cisco Jabber for Windows は、サービス プロファイルに指定できる設定をすべてはサポートしていません。 たとえば、Cisco Jabber for Windows は、サービス プロファイルからディレクトリ統合の設定を取得しません。 ディレクトリ統合は、設定 XML ファイルを使用して設定する必要があります。

サービス プロファイルの作成に関する特定の詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager Administration Guide*』の「*Service profile setup*」の項を参照してください。

ステップ 5 インスタント メッセージおよびプレゼンスを設定します。
導入を開始するには、まず、インスタントメッセージおよびプレゼンスを設定します。チャットおよびアベイラビリティ ステータスの機能を正常に設定した後は、その他のサービスを追加し、音声およびビデオまたはボイスメールなどの追加機能を設定することで、導入を拡張できます。

ステップ 6 ユーザを設定します。
ユーザを設定する際に、ユーザをサービスプロファイルに追加し、インスタントメッセージおよびプレゼンスに対してユーザを有効にします。 適切なサービスを設定し、そのサービスをサービス プロファイルに追加することによって、音声およびビデオ機能のような一連のオプションで導入環境を拡張できます。

ステップ 7 （任意） ユニファイド コミュニケーションを設定します。

ステップ 8 （任意） ボイスメールを設定します。

ステップ 9 （任意） Microsoft Office との統合を設定します。

基本サービスのアクティブ化および開始

基本サービスによってサーバ間の通信が可能になり、Cisco Jabber for Windows に機能が提供されます。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified IM and Presence のサービスアビリティ（Cisco Unified IM and Presence Serviceability）] インターフェイスを開きます。

ステップ 2 [ツール（Tools）] > [コントロールセンタの機能サービス（Control Center - Feature Services）] を選択します。

ステップ 3 [サーバ（Server）] ドロップダウン リストから適切なサーバを選択します。

ステップ 4 次のサービスが開始され、アクティブ化されることを確認します。

- Cisco SIP Proxy
- Cisco Sync Agent
- Cisco XCP Authentication Service
- Cisco XCP Connection Manager
- Cisco Presence Engine

ステップ 5 [ツール（Tools）] > [コントロールセンタの機能サービス（Control Center - Feature Services）] を選択します。

ステップ 6 [サーバ（Server）] ドロップダウン リストから適切なサーバを選択します。

ステップ 7 [Cisco XCP Router サービス（Cisco XCP Router Service）] が実行中であることを確認します。

次の作業

必要に応じて追加サービスをアクティブ化し、開始します。 使用可能サービスを確認し、導入環境に追加サービスが必要であるかどうかを判断するには、適切な Cisco Unified Communications Manager マニュアルを参照してください。

環境へのディレクトリの追加

環境にディレクトリを追加することで、ディレクトリ サーバに存在するユーザ データが Cisco Unified Communications Manager データベースに入力されます。 このタスクを実行すると、プロファイルに追加できる、また機能をプロビジョニングできる環境内対象ユーザが Cisco Unified Communications Manager に提供されます。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理（Cisco Unified CM Administration）] インターフェイスを開きます。

ステップ 2 [システム（System）] > [LDAP] > [LDAP システム（LDAP System）] を選択します。
[LDAP システムの設定（LDAP System Configuration）] ウィンドウが開きます。

ステップ 3 [LDAP システム情報（LDAP System Information）] セクションを見つけます。

ステップ 4 [LDAP サーバからの同期を有効にする（Enable Synchronizing from LDAP Server）] を選択します。

ステップ 5 次のドロップダウン リストから、適切な値を選択します。

- LDAP サーバ タイプ（LDAP Server Type）
- ユーザ ID の LDAP 属性（LDAP Attribute for User ID）

ステップ 6 [システム（System）] > [LDAP] > [LDAP ディレクトリ（LDAP Directory）] を選択します。

ステップ 7 [新規追加（Add New）] を選択します。
[LDAP ディレクトリ（LDAP Directory）] ウィンドウが開きます。

ステップ 8 [LDAP ディレクトリ（LDAP Directory）] ウィンドウで必要な詳細を指定します。
指定できる値と形式の詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager Administration Guide*』の「*LDAP directory setup*」を参照してください。

ステップ 9 [保存（Save）] を選択します。

ステップ 10 [完全同期を今すぐ実施（Perform Full Sync Now）] を選択します。

（注） 同期プロセスが完了するまでの時間は、ディレクトリに存在するユーザ数によって異なります。 数千のユーザが存在する大規模なディレクトリを同期する場合は、ある程度処理に時間がかかることが予想されます。

ディレクトリ サーバからのユーザ データは、Cisco Unified Communications Manager データベースに同期されます。 Cisco Unified Communications Manager は、そのユーザ データを Cisco Unified Communications IM and Presence データベースに同期させます。

次の作業

ディレクトリ内のユーザが Cisco Unified Communications Manager および Cisco Unified Communications IM and Presence で使用可能かどうかを確認します。

Cisco Unified Communications Manager および Cisco Unified Communications IM and Presence で使用可能なユーザのリストを返すには、次の手順を実行します。

1 [ユーザ管理（User Management）] > [エンド ユーザ（End User）] を選択します。

2 [ユーザの検索場所（Find User where）] フィールドで、[検索（Find）] を選択します。

ディレクトリ内のユーザが、使用可能なユーザのリストで返された場合、ディレクトリは正常に環境に追加されています。

関連トピック

「Configuring Cisco Unified Communication Manager Directory Integration」
「LDAP directory setup」
「Deployment Guide for IM and Presence Service: LDAP directory integration」

TFTP サーバの準備

Cisco Jabber for Windows は、TFTP サーバから設定およびデバイス設定を取得します。 Cisco Jabber for Windows がこれらの設定を取得できるように、Cisco Unified Communications IM and Presence で TFTP サーバの IP アドレスを指定する必要があります。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified CM IM and Presence の管理（Cisco Unified CM IM and Presence Administration）] インターフェイスを開きます。

ステップ 2 [アプリケーション（Application）] > [レガシー クライアント（Legacy Clients）] > [設定（Settings）] を選択します。

[レガシー クライアントの設定（Legacy Client Settings）] ウィンドウが開きます。

ステップ 3 [レガシー クライアントのセキュリティ設定（Legacy Client Security Settings）] セクションを見つけます。

ステップ 4 次のフィールドで、プライマリおよびバックアップ TFTP サーバの IP アドレスを指定します。

- プライマリ TFTP サーバ（Primary TFTP Server）
- バックアップ TFTP サーバ（Backup TFTP Server）
- バックアップ TFTP サーバ（Backup TFTP Server）

ステップ 5 [保存（Save）] を選択します。

サービス プロファイルの作成

Cisco Unified Communications Manager で追加するサービスの設定を含むサービス プロファイルを作成します。 Cisco Jabber for Windows ユーザに対するエンド ユーザ設定にサービス プロファイルを追加します。 それにより、Cisco Jabber for Windows は、そのサービス プロファイルから使用可能なサービスの設定を取得できます。

はじめる前に

サービス プロファイルの作成に関する特定の詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager Administration Guide*』の「*Service profile setup*」の項を参照してください。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理（Cisco Unified CM Administration）] インターフェイスを開きます。

ステップ 2 [ユーザ管理（User Management）]>[ユーザ設定（User Settings）]>[サービス プロファイル（Service Profile）] を選択します。
[サービス プロファイルの検索/一覧表示（Find and List Service Profiles）] ウィンドウが開きます。

ステップ 3 [新規追加（Add New）] を選択します。
[サービス プロファイルの設定（Service Profile Configuration）] ウィンドウが開きます。

ステップ 4 次の手順に従って、[サービス プロファイルの設定（Service Profile Configuration）] ウィンドウに設定を入力します。

a) [名前（Name）] フィールドで、サービス プロファイルの固有な名前を指定します。
b) [説明（Description）] フィールドで、任意の説明を指定します。
c) 必要に応じて、[システム デフォルトのサービス プロファイルに設定（Make this the default service profile for the system）] を選択します。

ステップ 5 [保存（Save）] を選択します。

次の作業

インスタントメッセージおよびプレゼンスを設定する手順を実行します。インスタントメッセージおよびプレゼンスに対してユーザを有効にすると同時に、サービスプロファイルをエンドユーザ設定に追加できます。

関連トピック

「Service profile setup」

インスタント メッセージおよびプレゼンスの設定

インスタントメッセージおよびプレゼンス機能は、Cisco Jabber for Windows 対応の基本機能です。ユーザは、インスタントメッセージを送受信し、アベイラビリティステータスを公開および表示することができます。

導入を開始するには、まず、インスタントメッセージおよびプレゼンスを設定します。チャットおよびアベイラビリティ ステータスの機能を正常に設定した後は、その他のサービスを追加し、音声およびビデオまたはボイスメールなどの追加機能を設定することで、導入を拡張できます。

メッセージ設定の有効化

Cisco Unified Communications IM and Presence でインスタント メッセージを有効にして、インスタント メッセージの設定を指定するには、このタスクの手順を実行します。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified CM IM and Presence の管理（Cisco Unified CM IM and Presence Administration）] インターフェイスを開きます。

ステップ 2 [メッセージング（Messaging）] > [設定（Settings）] を選択します。

ステップ 3 次のオプションを選択します。

- インスタント メッセージを有効にする（Enable instant messaging）
- クライアントでのインスタント メッセージ履歴のログ記録を可能にする（Allow clients to log instant message history）

ステップ 4 その他のメッセージングの設定を必要に応じて選択します。

ステップ 5 [保存（Save）] を選択します。

関連トピック

「Availability settings configuration on IM and Presence」

プレゼンス登録要求に関するプロンプトの設定

組織内の連絡先からのプレゼンス登録要求に関するプロンプトを有効または無効にすることができます。

Cisco Jabber for Windows はユーザに対して常に、組織外部の連絡先からのプレゼンス登録要求を許可するように求めるプロンプトを表示します。

ユーザは、次のように Cisco Jabber for Windows でプライバシー設定を指定します。

組織内部

Cisco Jabber for Windows ユーザは、組織内部の連絡先を許可またはブロックすることを選択できます。

- ユーザがプレゼンス登録要求の許可を選択した場合、かつ
  - [確認プロンプトなしで、ユーザが他のユーザのプレゼンス ステータスを表示できるようにする（Allow users to view the availability of other users without being prompted for approval）] を選択した場合、Cisco Jabber for Windows はユーザにプロンプトを表示せずにすべてのプレゼンス登録要求を自動的に受け入れます。
  - [確認プロンプトなしで、ユーザが他のユーザのプレゼンスステータスを表示できるようにする（Allow users to view the availability of other users without being prompted for approval）] を選択しなかった場合、Cisco Jabber for Windows はユーザに対してすべてのプレゼンス登録要求に関するプロンプトを表示します。
- ユーザが連絡先をブロックすることを選択した場合、既存の連絡先だけがそれぞれのアベイラビリティ ステータスを確認できます。 つまり、ユーザのプレゼンスにすでに登録されている連絡先だけが、それぞれのアベイラビリティ ステータスを確認できます。

（注） 組織内の連絡先を検索する際に、ユーザは組織内のすべてのユーザの一時的なアベイラビリティ ステータスを確認できます。 ただし、ユーザ A がユーザ B をブロックすると、ユーザ B はユーザ A の一時的なアベイラビリティ ステータスを検索リスト内で確認できません。

組織外部

Cisco Jabber for Windows ユーザは、組織外部の連絡先に対して次のオプションを選択できます。

- Cisco Jabber for Windows が、外部の連絡先に対して各プレゼンス登録要求に関するプロンプトを表示するようにする。
- 既存の連絡先だけにアベイラビリティ ステータスが表示されるように、すべての連絡先をブロックする。 つまり、ユーザのプレゼンスにすでに登録されている連絡先だけが、それぞれのアベイラビリティ ステータスを確認できます。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified CM IM and Presence の管理（Cisco Unified CM IM and Presence Administration）] インターフェイスを開きます。

ステップ 2 [プレゼンス（Presence）] > [設定（Settings）] を選択します。
[プレゼンスの設定（Presence Settings）] ウィンドウが開きます。

ステップ 3 [確認プロンプトなしで、ユーザが他のユーザのプレゼンス ステータスを表示できるようにする（Allow users to view the availability of other users without being prompted for approval）] を選択してプロンプトを無効にし、組織内のすべてのプレゼンス登録要求を自動的に受け入れます。
このオプションには、次の値があります。

オン

Cisco Jabber for Windows は、ユーザに対してプレゼンス登録要求に関するプロンプトを表示しません。 Cisco Jabber for Windows は、ユーザにプロンプトを表示せずに自動的にすべてのプレゼンス登録要求を受け入れます。

オフ

Cisco Jabber for Windows は、ユーザに対してプレゼンス登録要求の許可を求めるプロンプトを表示します。 この設定により、ユーザは、組織内の他のユーザに対してアベイラビリティ ステータスの表示を許可するように要求されます。

ステップ 4 [保存（Save）] を選択します。

インスタント メッセージおよびプレゼンス サービスの追加

インスタント メッセージおよびプレゼンス サービスは、Cisco Jabber for Windows ユーザにインスタント メッセージおよびアベイラビリティ ステータス機能を提供します。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理（Cisco Unified CM Administration）] インターフェイスを開きます。

ステップ 2 [ユーザ管理（User Management）] > [ユーザ設定（User Settings）] > [UC サービス（UC Service）] を選択します。
[UC サービスの検索/一覧表示（Find and List UC Services）] ウィンドウが開きます。

ステップ 3 [新規追加（Add New）] を選択します。
[UC サービスの設定（UC Service Configuration）] ウィンドウが開きます。

ステップ 4 [UC サービスの追加（Add a UC Service）] セクションで、[UC サービス タイプ（UC Service Type）] ドロップダウン リストから [IM and Presence] を選択します。

ステップ 5 [次へ（Next）] を選択します。

ステップ 6 次の手順に従って、インスタント メッセージおよびプレゼンス サービスの詳細を指定します。

a) [製品タイプ（Product Type）] ドロップダウン リストから、[Unified CM（IM and Presence）（Unified CM (IM and Presence)）] を選択します。

b) [名前（Name）] フィールドで、サービスの名前を指定します。
指定した名前は、サービスをプロファイルに追加するときに表示されます。指定する名前は、意味があり、識別しやすい固有の名前にします。

c) [説明（Description）] フィールドで、任意の説明を指定します。

d) [ホスト名/IP アドレス（Host Name/IP Address）] フィールドで、インスタント メッセージおよびプレゼンス サービス アドレスを指定します。

ステップ 7 [保存（Save）] を選択します。

次の作業

インスタント メッセージおよびプレゼンス サービスをサービス プロファイルに追加します。

関連トピック

「Add IM and Presence service」

インスタント メッセージおよびプレゼンス サービスの適用

Cisco Unified Communications Manager でインスタント メッセージおよびプレゼンス サービスを追加した後は、Cisco Jabber for Windows が設定を取得できるように、そのインスタント メッセージおよびプレゼンス サービスをサービス プロファイルに適用する必要があります。

はじめる前に

サービス プロファイルを作成します。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理（Cisco Unified CM Administration）] インターフェイスを開きます。

ステップ 2 [ユーザ管理（User Management）]>[ユーザ設定（User Settings）]>[サービス プロファイル（Service Profile）] を選択します。
[サービス プロファイルの検索/一覧表示（Find and List Service Profiles）] ウィンドウが開きます。

ステップ 3 サービス プロファイルを検索し、選択します。
[サービス プロファイルの設定（Service Profile Configuration）] ウィンドウが開きます。

ステップ 4 [IM/プレゼンス プロファイル（IM and Presence Profile）] セクションで、次のドロップダウン リストから最大 3 つのサービスを選択します。

- プライマリ（Primary）
- セカンダリ（Secondary）
- ターシャリ（Tertiary）

ステップ 5 [保存（Save）] を選択します。

関連トピック

「Service profile setup」

ユーザの設定

ユーザを設定するには、インスタント メッセージおよびプレゼンスを有効にして、ユーザにサービス プロファイルを追加します。

ユーザの個別設定

インスタントメッセージおよびプレゼンスを有効にして、サービスプロファイルを個々のユーザに追加します。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理（Cisco Unified CM Administration）] インターフェイスを開きます。

ステップ 2 [ユーザ管理（User Management）] > [エンド ユーザ（End User）] を選択します。

[ユーザの検索と一覧表示（Find and List Users）] ウィンドウが開きます。

ステップ 3 [ユーザの検索場所（Find User where）] フィールドで適切なフィルタを指定し、[検索（Find）] を選択してユーザのリストを取得します。

ステップ 4 対象のユーザ名をリストから選択します。
[エンド ユーザの設定（End User Configuration）] ウィンドウが開きます。

ステップ 5 [サービスの設定（Service Settings）] セクションを見つけて、次のことを行います。

a) [Unified CU IM and Presence のユーザの有効化（Enable User for Unified CU IM and Presence）] を選択します。

b) [UC サービス プロファイル（UC Service Profile）] ドロップダウン リストからサービス プロファイルを選択します。

ステップ 6 [保存（Save）] を選択します。

関連トピック

「End user setup」

ユーザの一括設定

インスタントメッセージおよびプレゼンスを有効にして、サービスプロファイルを複数のユーザに追加します。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理（Cisco Unified CM Administration）] インターフェイスを開きます。

ステップ 2 [一括管理（Bulk Administration）] > [ユーザ（Users）] > [ユーザの更新（Update Users）] > [クエリー（Query）] を選択します。
[更新するユーザの検索/一覧表示（Find and List Users To Update）] ウィンドウが開きます。

ステップ 3 [ユーザの検索場所（Find User where）] フィールドで適切なフィルタを指定し、[検索（Find）] を選択してユーザのリストを取得します。

ステップ 4 [次へ（Next）] を選択します。
[ユーザの更新（Update Users Configuration）] ウィンドウが開きます。

ステップ 5 [Unified CU IM and Presence のユーザの有効化（Enable User for Unified CU IM and Presence）] チェックボックスを両方ともオンにします。

重要 [Unified CU IM and Presence のユーザの有効化（Enable User for Unified CU IM and Presence）] には、2 つのチェックボックスがあります。 インスタント メッセージおよびプレゼンスを無効にするには、1 つのチェックボックスをオンにします。 インスタント メッセージおよびプレゼンスを有効にするには、両方のチェックボックスをオンにします。

ステップ 6 [US サービス プロファイル（UC Service Profile）] チェックボックスをオンにして、ドロップダウン リストからサービス プロファイルを選択します。

ステップ 7 [ジョブ情報（Job Information）] セクションで、ジョブをただちに実行するか、後で実行するかを指定します。

ステップ 8 [送信（Submit）] を選択します。

関連トピック

「End user setup」

予定表イベントに対する自動アベイラビリティ ステータスの有効化

予定表イベントに対するプレゼンス ステータスの自動更新を有効にするには、Cisco Jabber for Windows ユーザが個々に [Cisco Unified CM IM and Presence ユーザ オプション（Cisco Unified CM IM and Presence User Options）] インターフェイスで初期設定を有効にする必要があります。

重要

- この初期設定はデフォルトでは無効になっています。
- このリリースでは、各 Cisco Jabber for Windows ユーザが導入後、個別に初期設定を有効にする必要があります。 管理者が、複数のユーザに対して一括でこの初期設定を有効にすることはできません。

サポートされているブラウザのリストを含め、[Cisco Unified CM IM and Presence ユーザ オプション（Cisco Unified CM IM and Presence User Options）] インターフェイスの詳細については、適切な Cisco Unified Communications IM and Presence のマニュアルを参照してください。

このトピックでは、Cisco Jabber for Windows ユーザが、予定表イベントに対するプレゼンス ステータスの自動更新を有効にするために、導入後に実行する必要のある作業について説明します。

手順

ステップ 1 Cisco Jabber for Windows ユーザに提供する必要のある情報を収集するには、次の手順を実行します。

a) [Cisco Unified CM IM and Presence ユーザ オプション（Cisco Unified CM IM and Presence User Options）] インターフェイスの URL を決定します。
この URL の形式は、https://*server_name*:*port_number*/`cupuser/showHome.do` となります。

b) 適切な Cisco Jabber for Windows ユーザに [Cisco Unified CM IM and Presence ユーザ オプション（Cisco Unified CM IM and Presence User Options）] インターフェイスの URL とクレデンシャルを提供します。

ステップ 2 Cisco Jabber for Windows ユーザに次の手順を実行するよう、指示します。

a) [Cisco Unified Presence ユーザ オプション（Cisco Unified Presence User Options）] インターフェイスにログインします。
b) [ユーザ オプション（User Options）] > [初期設定（Preferences）] を選択します。
[初期設定（Preferences）] ページが開きます。
c) [初期設定（Preferences）] ページの [予定表の設定（Calendar Settings）] セクションに移動します。
d) [自分のプレゼンスステータスに予定表情報を含める（Include Calendar information in my Presence Status）] フィールドのドロップダウン メニューから [オン（On）] を選択します。
e) [保存（Save）] を選択します。
f) [Cisco Unified CM IM and Presence ユーザ オプション（Cisco Unified CM IM and Presence User Options）] インターフェイスからログアウトし、インターフェイスを閉じます。

これで、アベイラビリティ ステータスが予定表に統合されます。 予定表にミーティングがスケジュールされている場合、そのミーティングが開始されると、Cisco Jabber for Windows 内のステータスが自動的に [ミーティング中（In a meeting）] に設定されます。

ユニファイド コミュニケーションの設定

ユニファイド コミュニケーションを設定すると、Cisco Jabber for Windows の音声およびビデオ機能が有効になります。

はじめる前に

- 付加ライセンスの情報を含め、Cisco Unified Communications Manager ライセンス要件を確認します。
- Cisco Unified Communications Manager に関するデバイス名の設定ガイドラインを確認します。

ソフトフォン デバイスの作成

ソフトウェア フォンは、コンピュータを介して音声およびビデオを送受信するための機能を Cisco Jabber for Windows に提供します。

SIP プロファイルの作成

ソフトウェア フォン デバイスを作成するには、まず、ビデオ デスク共有を有効にできるように SIP プロファイルを作成します。 Client Service Framework（CSF）デバイスまたはソフトウェア フォン デバイスには、SIP プロファイルが必要です。 ただし、デフォルトの SIP プロファイルを編集したり、設定したりすることはできません。 この理由から、新規の SIP プロファイルを作成する必要があります。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理（Cisco Unified CM Administration）] インターフェイスを開きます。

ステップ 2 [デバイス（Device）] > [デバイスの設定（Device Settings）] > [SIP プロファイル（SIP Profile）] を選択します。
[SIP プロファイルの検索/一覧表示（Find and List SIP Profiles）] ウィンドウが開きます。

ステップ 3 次のいずれかを実行し、新規の SIP プロファイルを作成します。

- デフォルトの SIP プロファイルを見つけて、編集可能なコピーを作成します。
- [新規追加（Add New）] を選択し、新規の SIP プロファイルを作成します。

関連トピック

「8.6.x: SIP Profile Configuration」
「9.0.x: SIP profile setup」

ビデオ デスクトップ共有の設定

Cisco Unified Communications Manager は、Binary Floor Control Protocol（BFCP）を介してビデオ デスクトップ共有機能を提供します。 Cisco Jabber for Windows ユーザにビデオ デスクトップ共有機能を提供するには、適切な CSF デバイスで BFCP を有効にする必要があります。

（注） Cisco Jabber for Windows は、ソフトウェア フォン デバイスでのみビデオ デスクトップ共有をサポートします。 デスクフォン デバイスでは、Cisco Jabber for Windows とのビデオ デスクトップ共有を有効にできません。

重要 ハイブリッド クラウドベース導入では、Cisco WebEx と Cisco Unified Communications Manager の両方ともデスクトップ共有機能を提供します。

- Cisco Jabber for Windows ユーザがインスタント メッセージ セッション中にデスクトップ共有セッションを開始した場合は、Cisco WebEx によってデスクトップ共有機能が提供されます。
- Cisco Jabber for Windows ユーザが音声またはビデオ会話中にデスクトップ共有セッションを開始すると、Cisco Unified Communications Manager によってデスクトップ共有機能が提供されます。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理（Cisco Unified CM Administration）] インターフェイスを開きます。

ステップ 2 [デバイス（Device）] > [デバイスの設定（Device Settings）] > [SIP プロファイル（SIP Profile）] を選択します。
[SIP プロファイルの検索/一覧表示（Find and List SIP Profiles）] ウィンドウが開きます。

ステップ 3 [SIP プロファイルの検索場所（Find SIP Profile where）] フィールドで適切なフィルタを指定し、[検索（Find）] を選択して SIP プロファイルのリストを取得します。

ステップ 4 リストから適切な SIP プロファイルを選択します。
[SIP プロファイルの設定（SIP Profile Configuration）] ウィンドウが開きます。

ステップ 5 [トランク固有の設定（Trunk Specific Configuration）] セクションを見つけます。

ステップ 6 [BFCP を使用するプレゼンテーション共有を許可（Allow Presentation Sharing using BFCP）] を選択します。

ステップ 7 [保存（Save）] を選択します。

関連トピック

「Presentation Sharing with the Binary Floor Control Protocol」

CSF デバイスの作成

CSF デバイスは、ソフトウェア フォン機能を Cisco Jabber for Windows に提供します。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理（Cisco Unified CM Administration）] インターフェイスを開きます。

ステップ 2 [デバイス（Device）] > [電話（Phone）] を選択します。
[電話の検索/一覧表示（Find and List Phones）] ウィンドウが開きます。

ステップ 3 [新規追加（Add New）] を選択します。

ステップ 4 [電話のタイプ（Phone Type）] ドロップダウン リストから [Cisco Unified Client Services Framework] を選択し、[次へ（Next）] を選択します。

ステップ 5 [電話の設定（Phone Configuration）] ウィンドウで適切な設定を指定します。
[電話の設定（Phone Configuration）] ウィンドウでの設定の詳細については、Cisco Unified Communications Manager のマニュアルを参照してください。

ステップ 6 [SIP プロファイル（SIP Profile）] ドロップダウン リストから、ビデオ デスクトップ共有を有効にした SIP プロファイルを選択します。

ステップ 7 [保存（Save）] を選択します。

デバイスが正常に追加されたかどうかを通知するメッセージが表示されます。[電話の設定（Phone Configuration）] ウィンドウの [割り当て情報（Association Information）] セクションが使用可能になります。

次の作業

デバイスに電話番号を追加し、設定を適用します。

関連トピック

「Phone setup」
「Client Services Framework setup」

デバイスへの電話番号の追加

Cisco Unified Communications Manager で、電話番号をデバイスに追加する必要があります。 このトピックでは、デバイスを作成した後で、[デバイス（Device）] > [電話（Phone）] メニュー オプションを使用して電話番号を追加する手順を示します。 このメニューオプションでは、電話機モデルまたはCTIルートポイントに適用する設定のみが表示されます。 電話番号を設定するさまざまなオプションの詳細については、Cisco Unified Communications Manager のマニュアルを参照してください。

手順

ステップ 1 [電話の設定（Phone Configuration）] ウィンドウの [割り当て情報（Association Information）] セクションを見つけます。

ステップ 2 [新規 DN を追加（Add a new DN）] を選択します。
[電話番号の設定（Directory Number Configuration）] ウィンドウが開きます。

ステップ 3 [電話番号（Directory Number）] フィールドに電話番号を指定します。

ステップ 4 必要に応じて、その他の必要な設定をすべて指定します。

ステップ 5 次の手順に従って、エンドユーザと電話番号を関連付けます。

a) [回線に関連付けられているユーザ（Users Associated with Line）] セクションを見つけます。
b) [エンドユーザの関連付け（Associate End Users）] を選択します。
[ユーザの検索/一覧表示（Find and List Users）] ダイアログボックスが開きます。
c) [ユーザの検索場所（Find User where）] フィールドで適切なフィルタを指定し、[検索（Find）] を選択してユーザのリストを取得します。
d) 対象のユーザをリストから選択します。
e) [選択項目の追加（Add Selected）] を選択します。
選択したユーザがボイスメール プロファイルに追加されます。

ステップ 6 [保存（Save）] を選択します。

ステップ 7 [設定の適用（Apply Config）] を選択します。

[設定の適用（Apply Configuration）] ウィンドウが開きます。

ステップ 8 [設定の適用（Apply Configuration）] ウィンドウのプロンプトに従って、設定を適用します。

関連トピック

「8.6.x: Directory Number Configuration Settings」
「9.0.x: About directory number setup」

デスクフォンのデバイスの作成

Cisco Jabber for Windows ユーザは、コンピュータを使用してデスクフォンを制御し、音声コールを発信できます。 このトピックでは、Cisco Unified Communications Manager でデスクフォンのデバイスを作成する方法について説明します。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理（Cisco Unified CM Administration）] インターフェイスを開きます。

ステップ 2 [デバイス（Device）] > [電話（Phone）] を選択します。
[電話の検索と一覧表示（Find and List Phones）] ウィンドウが開きます。

ステップ 3 [新規追加（Add New）] を選択します。

ステップ 4 [電話タイプ（Phone Type）] ドロップダウン リストから適切なデバイスを選択し、[次へ（Next）] を選択します。
[電話の設定（Phone Configuration）] ウィンドウが開きます。

ステップ 5 [デバイス情報（Device Information）] セクションで次の手順を実行します。

a) [説明（Description）] フィールドにわかりやすい説明を入力します。
Cisco Jabber for Windows によってデバイスの説明が表示されます。 Cisco Jabber for Windows ユーザが同一モデルのデバイスを複数持っている場合、この説明が複数のデバイス間の違いを見分けるのに役立ちます。

b) [CTI からのデバイスの制御を許可する（Allow Control of Device from CTI）] を選択します。
[CTI からのデバイスの制御を許可する（Allow Control of Device from CTI）] を選択しない場合、Cisco Jabber for Windows ユーザはデスクフォンを制御できません。

ステップ 6 デスクフォン のビデオ機能を有効にするには、次の手順を実行します。

a) [プロダクト固有の設定（Product Specific Configuration Layout）] セクションを見つけます。

b) [ビデオ機能（Video Capabilities）] ドロップダウン リストから [有効（Enabled）] を選択します。

デスクフォンのビデオの詳細については、「デスクフォンビデオの設定」を参照してください。

ステップ 7 必要に応じて、[電話の設定（Phone Configuration）] ウィンドウでその他すべての設定を指定します。
[電話の設定（Phone Configuration）] ウィンドウでの設定の詳細については、Cisco Unified Communications Manager のマニュアルを参照してください。

ステップ 8 [保存（Save）] を選択します。
デバイスが正常に追加されたかどうかを通知するメッセージが表示されます。[アソシエーション情報（Association Information）] セクションが [電話の設定（Phone Configuration）] ウィンドウで利用可能になります。

次の作業

ディレクトリ番号をデバイスに追加し、設定を適用します。

関連トピック

「Phone setup」

デスク フォン ビデオの設定

デスクフォン のビデオ機能を使用すると、ユーザは Cisco Jabber for Windows を通じてコンピュータの デスクフォン デバイスに送られたビデオを受信することができます。

デスク フォン ビデオのセットアップ

デスクフォン ビデオをセットアップするには、次の手順を実行する必要があります。

1. デスクフォン デバイスのコンピュータ ポートに、コンピュータを物理的に接続します。

   Cisco Jabber for Windows がデバイスへの接続を確立できるよう、コンピュータ ポートを通じてデスクフォン デバイスとコンピュータを物理的に接続する必要があります。 デスクフォン デバイスへのワイヤレス接続では、デスクフォン のビデオ機能は使用できません。

2. Cisco Unified Communications Manager の [電話の設定（Phone Configuration）] ウィンドウで、デスクフォン デバイスのビデオを有効にします。

   方法については、「デスクフォンのデバイスの作成」のトピックを参照してください。

3. コンピュータに Cisco Medianet をインストールします。

   Cisco Medianet によって、Cisco Jabber for Windows が次の操作を実行できるドライバが提供されます。

   - デスクフォン デバイスを検出する。
   - CAST プロトコルを使用し、デスクフォン への接続を確立して保持する。

デスク フォン ビデオに関する考慮事項

デスク フォン ビデオ機能を Cisco Jabber for Windows ユーザに対してプロビジョニングする前に、次の考慮事項と制限事項を確認してください。

- Cisco Unified IP Phone 9971 など、ビデオ カメラが接続されたデバイスでは、デスク フォン ビデオ機能は使用できません。
- CTI に対応していないデバイスでは、デスク フォン ビデオ機能は使用できません。
- BFCP プロトコルを使用したビデオデスクトップ共有は、デスク フォン ビデオでは使用できません。
- SCCP を使用するエンドポイントで、ビデオだけを受信することはできません。 SCCP エンドポイントは、ビデオを送受信する必要があります。 SCCP がビデオを送信しないインスタンスでは、オーディオのみのコールになります。

デバイスへの電話番号の追加

Cisco Unified Communications Manager で、電話番号をデバイスに追加する必要があります。 このトピックでは、デバイスを作成した後で、[デバイス（Device）] > [電話（Phone）] メニュー オプションを使用して電話番号を追加する手順を示します。 このメニューオプションでは、電話機モデルまたは CTI ルート ポイントに適用する設定のみが表示されます。 電話番号を設定するさまざまなオプションの詳細については、Cisco Unified Communications Manager のマニュアルを参照してください。

手順

ステップ 1 [電話の設定（Phone Configuration）] ウィンドウの [割り当て情報（Association Information）] セクションを見つけます。

ステップ 2 [新規 DN を追加（Add a new DN）] を選択します。
[電話番号の設定（Directory Number Configuration）] ウィンドウが開きます。

ステップ 3 [電話番号（Directory Number）] フィールドに電話番号を指定します。

ステップ 4 必要に応じて、その他の必要な設定をすべて指定します。

ステップ 5 次の手順に従って、エンド ユーザと電話番号を関連付けます。

a) [回線に関連付けられているユーザ（Users Associated with Line）] セクションを見つけます。
b) [エンド ユーザの関連付け（Associate End Users）] を選択します。
[ユーザの検索/一覧表示（Find and List Users）] ダイアログボックスが開きます。
c) [ユーザの検索場所（Find User where）] フィールドで適切なフィルタを指定し、[検索（Find）] を選択してユーザのリストを取得します。
d) 対象のユーザをリストから選択します。
e) [選択項目の追加（Add Selected）] を選択します。

選択したユーザがボイスメール プロファイルに追加されます。

ステップ 6 [保存（Save）] を選択します。

ステップ 7 [設定の適用（Apply Config）] を選択します。
[設定の適用（Apply Configuration）] ウィンドウが開きます。

ステップ 8 [設定の適用（Apply Configuration）] ウィンドウのプロンプトに従って、設定を適用します。

関連トピック

「8.6.x: Directory Number Configuration Settings」
「9.0.x: About directory number setup」

ビデオ レート アダプテーションの有効化

Cisco Jabber for Windows では、ビデオ レート アダプテーションを使用して、最適なビデオ品質をネゴシエートします。 ビデオ レート アダプテーションは、ネットワークの状況に基づいてビデオ品質を動的に向上または低下させます。

ビデオ レート アダプテーションを使用するには、Cisco Unified Communications Manager で Real-Time Transport Control Protocol（RTCP）を有効にする必要があります。

（注） ソフトウェア フォン デバイスでは、デフォルトで RTCP が有効になります。 ただし、デスクフォン デバイスでは RTCP を有効にする必要があります。

共通の電話プロファイルでの RTCP の有効化

共通の電話プロファイルで RTCP を有効にして、そのプロファイルを使用するすべてのデバイスでビデオ レート アダプテーションを有効にすることができます。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理（Cisco Unified CM Administration）] インターフェイスを開きます。

ステップ 2 [デバイス（Device）]>[デバイスの設定（Device Settings）]>[共通の電話プロファイル（Common Phone Profile）] を選択します。
[共通の電話プロファイルの検索/一覧表示（Find and List Common Phone Profiles）] ウィンドウが開きます。

ステップ 3 [共通の電話プロファイルの検索場所（Find Common Phone Profile where）] フィールドで適切なフィルタを指定し、[検索（Find）] を選択してプロファイルのリストを取得します。

ステップ 4 対象のプロファイルをリストから選択します。

[共通の電話プロファイルの設定（Common Phone Profile Configuration）] ウィンドウが開きます。

ステップ 5 [プロダクト固有の設定（Product Specific Configuration Layout）] セクションを見つけます。

ステップ 6 [RTCP] ドロップダウン リストから [有効（Enabled）] を選択します。

ステップ 7 [保存（Save）] を選択します。

関連トピック

「8.6.x: Common Phone Profile Configuration」

「9.0.x: Common phone profile setup」

デバイス設定での RTCP の有効化

共通の電話プロファイルの代わりに、特定のデバイス設定でRTCPを有効にすることができます。特定のデバイス設定によって、共通の電話プロファイルで指定した設定は無効になります。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理（Cisco Unified CM Administration）] インターフェイスを開きます。

ステップ 2 [デバイス（Device）] > [電話（Phone）] を選択します。
[電話の検索/一覧表示（Find and List Phones）] ウィンドウが開きます。

ステップ 3 [電話の検索場所（Find Phone where）] フィールドで適切なフィルタを指定し、[検索（Find）] を選択して電話機のリストを取得します。

ステップ 4 対象の電話機をリストから選択します。
[電話の設定（Phone Configuration）] ウィンドウが開きます。

ステップ 5 [プロダクト固有の設定（Product Specific Configuration Layout）] セクションを見つけます。

ステップ 6 [RTCP] ドロップダウン リストから [有効（Enabled）] を選択します。

ステップ 7 [保存（Save）] を選択します。

関連トピック

「8.6.x: Phone Configuration Settings」

「9.0.x: Phone setup」

CTI サービスの追加

CTI サービスは、Cisco Jabber for Windows ユーザによるデバイスの制御を可能にします。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理（Cisco Unified CM Administration）] インターフェイスを開きます。

ステップ 2 [ユーザ管理（User Management）] > [ユーザ設定（User Settings）] > [UC サービス（UC Service）] を選択します。
[UC サービスの検索/一覧表示（Find and List UC Services）] ウィンドウが開きます。

ステップ 3 [新規追加（Add New）] を選択します。
[UC サービスの設定（UC Service Configuration）] ウィンドウが開きます。

ステップ 4 [UC サービスの追加（Add a UC Service）] セクションで、[UC サービス タイプ（UC Service Type）] ドロップダウン リストから [CTI] を選択します。

ステップ 5 [次へ（Next）] を選択します。

ステップ 6 次の手順に従って、インスタント メッセージおよびプレゼンス サービスの詳細を指定します。

a) [名前（Name）] フィールドで、サービスの名前を指定します。
指定した名前は、サービスをプロファイルに追加するときに表示されます。 指定する名前は、意味があり、識別しやすい固有の名前にします。

b) [説明（Description）] フィールドで、任意の説明を指定します。

c) [ホスト名/IP アドレス（Host Name/IP Address）] フィールドで、CTI サービス アドレスを指定します。

d) [ポート（Port）] フィールドで、CTI サービスのポート番号を指定します。

ステップ 7 [保存（Save）] を選択します。

次の作業

CTI サービスをサービス プロファイルに追加します。

関連トピック

「Add CTI service」

CTI サービスの適用

Cisco Unified Communications Manager で CTI サービスを追加した後は、Cisco Jabber for Windows が設定を取得できるように、その CTI サービスをサービス プロファイルに適用する必要があります。

はじめる前に

サービス プロファイルを作成します。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理（Cisco Unified CM Administration）] インターフェイスを開きます。

ステップ 2 [ユーザ管理（User Management）]>[ユーザ設定（User Settings）]>[サービス プロファイル（Service Profile）] を選択します。
[サービス プロファイルの検索/一覧表示（Find and List Service Profiles）] ウィンドウが開きます。

ステップ 3 サービス プロファイルを検索し、選択します。
[サービス プロファイルの設定（Service Profile Configuration）] ウィンドウが開きます。

ステップ 4 [CTI プロファイル（CTI Profile）] セクションで、次のドロップダウン リストから最大 3 つのサービスを選択します。

- プライマリ（Primary）
- セカンダリ（Secondary）
- ターシャリ（Tertiary）

ステップ 5 [保存（Save）] を選択します。

関連トピック

「Service profile setup」

CTI リモート デバイスの作成

Cisco Jabber for Windows では、Cisco Unified Communications Manager の拡張および接続機能を使用して、公衆電話交換網（PSTN）電話機や構内交換機（PBX）デバイスなどのデバイスでのコールを制御します。

ここでは、Cisco Jabber for Windows 対応の拡張および接続機能について説明し、拡張および接続機能を使用して Cisco Jabber for Windows ユーザをプロビジョニングするための手順を示します。また、Cisco Jabber for Windows での拡張および接続機能の使用に関する制限事項と既知の問題についても説明します。

拡張および接続機能の詳細については、適切な Cisco Unified Communications Manager のマニュアルを参照してください。

重要 拡張および接続機能は、Cisco Unified Communications Manager 9.0.1 以降でのみサポートされます。

Cisco Jabber for Windows の拡張および接続

ユーザは、Cisco Jabber for Windows 内から直接リモート接続先を入力できます。 Cisco Jabber for Windows ユーザ用にリモート接続先を入力する必要はありません。 ただし、ユーザのモビリティを有効にして、適切なユーザに CTI リモート デバイスをプロビジョニングする必要があります。 Cisco Unified Communications Manager は、CTI サービスを通じてサードパーティのデバイスを制御するので、ユーザのサービス プロファイルに CTI サービスが含まれていることも確認する必要があります。

CTI リモート デバイスと Cisco Jabber for Windows の使用

ユーザが Cisco Jabber for Windows にサインインして、リモート デバイスをアクティブに設定した場合、そのユーザの電話番号に着信コールがあるとそのデバイスが呼び出されます。 また、Cisco Jabber for Windows は、ユーザがサインインしている場合、発信コールをアクティブ デバイスに転送します。

ユーザが Cisco Jabber for Windows にサインインしていない場合、ユーザの電話番号に着信コールがあると、リモート接続先として設定されているすべてのデバイスが呼び出されます。 ユーザがサインインしていなければ、リモート デバイスに発信コールを転送することはできません。

制限事項と既知の問題

ここでは、Cisco Unified Communications Manager の拡張および接続機能について現在存在する制限事項と既知の問題を示します。

- 1 人のユーザには 1 つのリモート接続先しか設定できません。

  2 人以上の Cisco Jabber for Windows ユーザに同じリモート接続先を設定できません。

- Cisco Jabber for Windows ユーザは、複数のデバイスに 1 つのリモート接続先を使用できません。
- ほとんどの場合、Cisco Jabber for Windows を使用してリモート接続先への着信コールに応答することはできません。 リモート接続先への着信コールには手動で応答する必要があります。
- Cisco Unified Communications Manager クラスタにエンドポイントとして設定したデバイスには、拡張および接続機能をプロビジョニングできません。
- デュアルトーン マルチ周波数（DTMF）シグナリングは、CTI ではサポートされません。

ユーザ モビリティの有効化

Cisco Jabber for Windows ユーザに CTI リモート デバイスをプロビジョニングするには、モビリティを有効にする必要があります。 ユーザに対してモビリティを有効にしないと、それらのユーザを CTI リモート デバイスのオーナーとして割り当てることができません。

手順

ステップ 1 [ユーザの検索場所（Find User where）] フィールドで適切なフィルタを指定し、[検索（Find）] を選択してユーザのリストを取得します。

ステップ 2 対象のユーザをリストから選択します。
[エンド ユーザの設定（End User Configuration）] ウィンドウが開きます。

ステップ 3 [モビリティ情報（Mobility Information）] セクションを見つけます。

ステップ 4 [モビリティの有効化（Enable Mobility）] を選択します。

ステップ 5 [保存（Save）] を選択します。

CTI リモート デバイスの作成

CTI リモート デバイスは、Cisco Jabber for Windows ユーザのリモート接続先を監視し、コール制御を行う仮想デバイスです。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理（Cisco Unified CM Administration）] インターフェイスを開きます。

ステップ 2 [デバイス（Device）] > [電話（Phone）] を選択します。
[電話の検索と一覧表示（Find and List Phones）] ウィンドウが開きます。

ステップ 3 [新規追加（Add New）] を選択します。

ステップ 4 [電話のタイプ（Phone Type）] ドロップダウン リストから [CTI リモート デバイス（CTI Remote Device）] を選択し、[次へ（Next）] を選択します。
[電話の設定（Phone Configuration）] ウィンドウが開きます。

ステップ 5 [オーナーのユーザ ID（Owner User ID）] ドロップダウン リストから適切なユーザ ID を選択します。

（注） モビリティを有効にする対象のユーザのみ、[オーナーのユーザ ID（Owner User ID）] ドロップダウン リストから選択できます。 詳細については、ユーザ モビリティの有効化を参照してください。

Cisco Unified Communications Manager によって、[デバイス名（Device Name）] フィールドにユーザ ID と CTRID プレフィックス（CTRIDusername など）が入力されます。

ステップ 6 必要に応じて、[デバイス名（Device Name）] フィールドのデフォルト値を編集します。

ステップ 7 [説明（Description）] フィールドにわかりやすい説明を入力します。
Cisco Jabber for Windows によってデバイスの説明が表示されます。 Cisco Jabber for Windows ユーザが同一モデルのデバイスを複数持っている場合、この説明が複数のデバイス間の違いを見分けるのに役立ちます。

ステップ 8 その他すべての設定を [電話の設定（Phone Configuration）] ウィンドウで適宜指定します。
詳細については、Cisco Unified Communications Manager のマニュアルの「*CTI remote device setup*」を参照してください。

ステップ 9 [保存（Save）] を選択します。
電話番号を関連付け、リモート接続先を追加するフィールドが、[電話の設定（Phone Configuration）] ウィンドウで使用可能になります。

関連トピック

「CTI remote device setup」
「CTI Remote Device for JTAPI」
「Phone settings」

デバイスへの電話番号の追加

Cisco Unified Communications Manager で、電話番号をデバイスに追加する必要があります。 このトピックでは、デバイスを作成した後で、[デバイス（Device）] > [電話（Phone）] メニュー オプションを使用して電話番号を追加する手順を示します。 このメニューオプションでは、電話機モデルまたはCTI ルート ポイントに適用する設定のみが表示されます。 電話番号を設定するさまざまなオプションの詳細については、Cisco Unified Communications Manager のマニュアルを参照してください。

手順

ステップ 1 [電話の設定（Phone Configuration）] ウィンドウの [割り当て情報（Association Information）] セクションを見つけます。

ステップ 2 [新規 DN を追加（Add a new DN）] を選択します。
[電話番号の設定（Directory Number Configuration）] ウィンドウが開きます。

ステップ 3 [電話番号（Directory Number）] フィールドに電話番号を指定します。

ステップ 4 必要に応じて、その他の必要な設定をすべて指定します。

ステップ 5 次の手順に従って、エンド ユーザと電話番号を関連付けます。

a) [回線に関連付けられているユーザ（Users Associated with Line）] セクションを見つけます。
b) [エンド ユーザの関連付け（Associate End Users）] を選択します。
[ユーザの検索/一覧表示（Find and List Users）] ダイアログボックスが開きます。
c) [ユーザの検索場所（Find User where）] フィールドで適切なフィルタを指定し、[検索（Find）] を選択してユーザのリストを取得します。
d) 対象のユーザをリストから選択します。
e) [選択項目の追加（Add Selected）] を選択します。

選択したユーザがボイスメール プロファイルに追加されます。

ステップ 6 [保存（Save）] を選択します。

ステップ 7 [設定の適用（Apply Config）] を選択します。
[設定の適用（Apply Configuration）] ウィンドウが開きます。

ステップ 8 [設定の適用（Apply Configuration）] ウィンドウのプロンプトに従って、設定を適用します。

関連トピック

「8.6.x: Directory Number Configuration Settings」
「9.0.x: About directory number setup」

リモート接続先の追加

リモート接続先とは、Cisco Jabber for Windows ユーザが使用できる CTI 制御可能デバイスです。

メモ Cisco Jabber for Windows ユーザは、各自のリモート接続先を Cisco Jabber for Windows 内から、または [Cisco Unified CM のユーザ オプション（Cisco Unified CM User Options）] ウィンドウから追加できます。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理（Cisco Unified CM Administration）] インターフェイスを開きます。

ステップ 2 [デバイス（Device）] > [電話（Phone）] を選択します。
[電話の検索と一覧表示（Find and List Phones）] ウィンドウが開きます。

ステップ 3 [電話の検索場所（Find Phone where）] フィールドで適切なフィルタを指定し、[検索（Find）] を選択して電話機のリストを取得します。

ステップ 4 リストから CTI リモート デバイスを選択します。
[電話の設定（Phone Configuration）] ウィンドウが開きます。

ステップ 5 [関連付けられたリモート接続先（Associated Remote Destinations）] セクションを見つけます。

ステップ 6 [新規リモート接続先プロファイルの追加（Add a New Remote Destination）] を選択します。
[リモート接続先情報（Remote Destination Information）] ウィンドウが開きます。

ステップ 7 [接続先番号（Destination Number）] フィールドに接続先番号を入力し、その他すべての値を必要に応じて指定します。
詳細については、Cisco Unified Communications Manager マニュアルの「*Remote destination configuration settings*」を参照してください。

ステップ 8 [保存（Save）] を選択します。

次の作業

リモート接続先を確認し、CTI リモートデバイスに設定を適用するには、次の手順を実行します。

1. CTI リモートデバイス用に、[電話の設定（Phone Configuration）] を開く手順を繰り返します。
2. [関連付けられたリモート接続先（Associated Remote Destinations）] セクションを見つけます。
3. リモート接続先が使用可能であることを確認します。
4. [設定の適用（Apply Config）] を選択します。

（注） [電話の設定（Phone Configuration）] ウィンドウの [デバイス情報（Device Information）] セクションに、[アクティブなリモート接続先（Active Remote Destination）] フィールドがあります。

ユーザが Cisco Jabber for Windows でリモート接続先を選択すると、[アクティブなリモート接続先（Active Remote Destination）] の値として表示されます。

次の場合は、[なし（none）] が [アクティブなリモート接続先（Active Remote Destination）] の値として表示されます。

- ユーザが Cisco Jabber for Windows でリモート接続先を選択していない場合。
- ユーザが Cisco Jabber for Windows を終了したか、サインインしていない場合。

関連トピック

「Remote destination configuration settings」

CTI サービスの追加

CTI サービスは、Cisco Jabber for Windows ユーザによるデバイスの制御を可能にします。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理（Cisco Unified CM Administration）] インターフェイスを開きます。

ステップ 2 [ユーザ管理（User Management）] > [ユーザ設定（User Settings）] > [UC サービス（UC Service）] を選択します。
[UC サービスの検索/一覧表示（Find and List UC Services）] ウィンドウが開きます。

ステップ 3 [新規追加（Add New）] を選択します。

[UC サービスの設定（UC Service Configuration）] ウィンドウが開きます。

ステップ 4 [UC サービスの追加（Add a UC Service）] セクションで、[UC サービス タイプ（UC Service Type）] ドロップダウン リストから [CTI] を選択します。

ステップ 5 [次へ（Next）] を選択します。

ステップ 6 次の手順に従って、インスタント メッセージおよびプレゼンス サービスの詳細を指定します。

a) [名前（Name）] フィールドで、サービスの名前を指定します。
指定した名前は、サービスをプロファイルに追加するときに表示されます。指定する名前は、意味があり、識別しやすい固有の名前にします。

b) [説明（Description）] フィールドで、任意の説明を指定します。

c) [ホスト名/IP アドレス（Host Name/IP Address）] フィールドで、CTI サービス アドレスを指定します。

d) [ポート（Port）] フィールドで、CTI サービスのポート番号を指定します。

ステップ 7 [保存（Save）] を選択します。

次の作業

CTI サービスをサービス プロファイルに追加します。

関連トピック

「Add CTI service」

CTI サービスの適用

Cisco Unified Communications Manager で CTI サービスを追加した後は、Cisco Jabber for Windows が設定を取得できるように、その CTI サービスをサービス プロファイルに適用する必要があります。

はじめる前に

サービス プロファイルを作成します。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理（Cisco Unified CM Administration）] インターフェイスを開きます。

ステップ 2 [ユーザ管理（User Management）] > [ユーザ設定（User Settings）] > [サービス プロファイル（Service Profile）] を選択します。
[サービス プロファイルの検索/一覧表示（Find and List Service Profiles）] ウィンドウが開きます。

ステップ 3 サービス プロファイルを検索し、選択します。
[サービス プロファイルの設定（Service Profile Configuration）] ウィンドウが開きます。

ステップ 4 [CTI プロファイル（CTI Profile）] セクションで、次のドロップダウン リストから最大 3 つのサービスを選択します。

- プライマリ（Primary）
- セカンダリ（Secondary）
- ターシャリ（Tertiary）

ステップ 5 [保存（Save）] を選択します。

関連トピック

「Service profile setup」

ユーザの割り当ての設定

Cisco Unified Communications Manager 上のソフトウェア フォン デバイスおよびデスクフォン デバイスにユーザを関連付ける必要があります。 ユーザをデバイスに関連付けると、ユーザはそれらのデバイスにアクセスし、音声およびビデオ コールを送受信できるようになります。

ユーザをデバイスに関連付けるほか、ユーザを適切なアクセス コントロール リストに追加することも必要です。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理（Cisco Unified CM Administration）] インターフェイスを開きます。

ステップ 2 [ユーザ管理（User Management）] > [エンド ユーザ（End User）] を選択します。
[ユーザの検索と一覧表示（Find and List Users）] ウィンドウが開きます。

ステップ 3 [ユーザの検索場所（Find User where）] フィールドで適切なフィルタを指定し、[検索（Find）] を選択してユーザのリストを取得します。

ステップ 4 対象のユーザをリストから選択します。
[エンド ユーザの設定（End User Configuration）] ウィンドウが開きます。

ステップ 5 [デバイス情報（Device Information）] セクションを見つけます。

ステップ 6 [デバイスの割り当て（Device Association）] を選択します。
[ユーザ デバイス割り当て（User Device Association）] ウィンドウが開きます。

ステップ 7 ユーザを割り当てるデバイスを選択します。

ステップ 8 [選択/変更の保存（Save Selected/Changes）] を選択します。

ステップ 9 [ユーザ管理（User Management）] > [エンド ユーザ（End User）] を選択し、[ユーザの検索/一覧表示（Find and List Users）] ウィンドウに戻ります。

ステップ 10 リストから、同じユーザを見つけて選択します。

[エンド ユーザの設定（End User Configuration）] ウィンドウが開きます。

ステップ 11 [権限情報（Permissions Information）] セクションを見つけます。

ステップ 12 [アクセス コントロール グループに追加（Add to Access Control Group）] を選択します。
[アクセス コントロール グループの検索/一覧表示（Find and List Access Control Groups）] ダイアログボックスが開きます。

ステップ 13 ユーザを割り当てるアクセス コントロール グループを選択します。
少なくとも、次のアクセス コントロール グループにユーザを割り当てる必要があります。

- Standard CCM End Users
- Standard CTI Enabled

特定の電話機モデルには、次のような追加のコントロール グループが必要です。

- Cisco Unified IP Phone 9900 または 8900 シリーズ。[標準 CTI による接続時の転送および会議をサポートする電話の制御（Standard CTI Allow Control of Phones supporting Connected Xfer and conf）] を選択します。
- Cisco Unified IP Phone 6900 シリーズ。[標準 CTI によるロールオーバー モードをサポートする電話の制御（Standard CTI Allow Control of Phones supporting Rollover Mode）] を選択します。

ステップ 14 [選択項目の追加（Add Selected）] を選択します。
[アクセス コントロール グループの検索/一覧表示（Find and List Access Control Groups）] ウィンドウが閉じられます。

ステップ 15 [エンド ユーザの設定（End User Configuration）] ウィンドウで [保存（Save）] を選択します。

デバイスのリセット

ソフトウェア フォンとデスクフォンを追加し、それらのデバイスにユーザを関連付けた後は、デバイスをリセットする必要があります。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理（Cisco Unified CM Administration）] インターフェイスを開きます。

ステップ 2 [デバイス（Device）] > [電話（Phone）] を選択します。
[電話の検索/一覧表示（Find and List Phones）] ウィンドウが開きます。

ステップ 3 [電話の検索場所（Find Phone where）] フィールドで適切なフィルタを指定し、[検索（Find）] を選択してデバイスのリストを取得します。

ステップ 4 対象のデバイスをリストから選択します。

[電話の設定（Phone Configuration）] ウィンドウが開きます。

ステップ 5 [割り当て情報（Association Information）] セクションを見つけます。

ステップ 6 適切な電話番号の設定を選択します。
[電話番号の設定（Directory Number Configuration）] ウィンドウが開きます。

ステップ 7 [リセット（Reset）] を選択します。
[デバイス リセット（Device Reset）] ダイアログボックスが開きます。

ステップ 8 [リセット（Reset）] を選択します。

ステップ 9 [閉じる（Close）] を選択して、[デバイス リセット（Device Reset）] ダイアログボックスを閉じます。

CCMCIP プロファイルの作成

Cisco Jabber for Windows では、Cisco Unified Communications Manager からデバイス設定を取得するために CCMCIP プロファイルを必要とします。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified CM IM and Presence の管理（Cisco Unified CM IM and Presence Administration）] インターフェイスを開きます。

ステップ 2 [アプリケーション（Application）] > [レガシー クライアント（Legacy Clients）] > [CCMCIP プロファイル（CCMCIP Profile）] を選択します。
[CCMCIP プロファイルの検索/一覧表示（Find and List CCMCIP Profiles）] ウィンドウが開きます。

ステップ 3 [新規追加（Add New）] を選択します。
[CCMCIP プロファイルの設定（CCMCIP Profile Configuration）] ウィンドウが開きます。

ステップ 4 次のように、CCMCIP プロファイルの設定の詳細を指定します。

a) [名前（Name）] フィールドで、プロファイルの名前を指定します。
b) [プライマリ CCMCIP ホスト（Primary CCMCIP Host）] フィールドで、プライマリ Cisco Unified Communications Manager インスタンスのホスト名または IP アドレスを指定します。
c) [プライマリ CCMCIP ホスト（Primary CCMCIP Host）] フィールドで、バックアップ Cisco Unified Communications Manager インスタンスのホスト名または IP アドレスを指定します。
d) [サーバ証明書の確認（Server Certificate Verification）] は、デフォルト値のままにします。

ステップ 5 次の手順に従って、CCMCIP プロファイルにユーザを追加します。

a) [プロファイルにユーザを追加（Add Users to Profile）] を選択します。
[ユーザの検索/一覧表示（Find and List Users）] ダイアログボックスが開きます。
b) [ユーザの検索場所（Find User where）] フィールドで適切なフィルタを指定し、[検索（Find）] を選択してユーザのリストを取得します。

c) 対象のユーザをリストから選択します。
d) [選択項目の追加（Add Selected）] を選択します。
選択したユーザが CCMCIP プロファイルに追加されます。

ステップ 6 [保存（Save）] を選択します。

関連トピック

「Configure CCMCIP profiles」

ボイスメールの設定

ボイスメールを設定すると、Cisco Jabber for Windows ユーザがボイスメール メッセージを取得し、着信音声コールをボイスメールサービスにリダイレクトできるようになります。 ボイスメールの設定タスクの一環として、Cisco Jabber for Windows で表示によるボイスメールを有効にするようにメールストアを設定することもできます。

Cisco Unity Connection の設定

このタスクは、Cisco Jabber for Windows を使用した Cisco Unity Connection にボイスメールを設定するために実行する必要のあるタスクの概要を示します。 それぞれの導入要件に固有の設定タスクの詳細については、適切な Cisco Unity Connection のマニュアルを参照してください。

手順

ステップ 1 Cisco Unity Connection で適切なユーザ プロファイルを作成します。

ステップ 2 ユーザに IMAP アクセス権を与えます。

a) Cisco Unity Connection 管理インターフェイスを開きます。
b) [サービス クラス（Class of Service）] を選択します。
[サービス クラスの編集（Edit Class of Service）] ウィンドウが開きます。
c) [ライセンス済み機能（Licensed Features）] セクションを見つけます。
d) [IMAP クライアントやシングル インボックスを使用したボイスメールへのアクセスをユーザに許可する（Allow Users to Access Voice Mail Using an IMAP Client and/or Single Inbox）] を選択します。
e) [メッセージ本文へのアクセスを IMAP ユーザに許可する（Allow IMAP Users to Access Message Bodies）] を選択します。
f) [保存（Save）] を選択します。

関連トピック

「Edit Class of Service」

ボイスメール サービスの追加

ボイスメール サービスは、Cisco Jabber for Windows ユーザにボイスメール メッセージを受信する機能を提供します。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理（Cisco Unified CM Administration）] インターフェイスを開きます。

ステップ 2 [ユーザ管理（User Management）] > [ユーザ設定（User Settings）] > [UC サービス（UC Service）] を選択します。
[UC サービスの検索/一覧表示（Find and List UC Services）] ウィンドウが開きます。

ステップ 3 [新規追加（Add New）] を選択します。
[UC サービスの設定（UC Service Configuration）] ウィンドウが開きます。

ステップ 4 [UC サービスの追加（Add a UC Service）] セクションで、[UC サービス タイプ（UC Service Type）] ドロップダウン リストから [ボイスメール（Voicemail）] を選択します。

ステップ 5 [次へ（Next）] を選択します。

ステップ 6 次の手順に従って、インスタント メッセージおよびプレゼンス サービスの詳細を指定します。

a) [製品タイプ（Product Type）] ドロップダウン リストから [Unity Connection] を選択します。

b) [名前（Name）] フィールドで、サービスの名前を指定します。
指定した名前は、サービスをプロファイルに追加するときに表示されます。 指定する名前は、意味があり、識別しやすい固有の名前にします。

c) [説明（Description）] フィールドで、任意の説明を指定します。

d) [ホスト名/IP アドレス（Host Name/IP Address）] フィールドで、ボイスメール サービス アドレスを指定します。

e) [ポート（Port）] フィールドで、ボイスメール サービスのポート番号を指定します。

f) [プロトコル（Protocol）] ドロップダウン リストから、次のいずれかを選択します。

- HTTP
- HTTPS

ステップ 7 [保存（Save）] を選択します。

次の作業

ボイスメール サービスをサービス プロファイルに追加します。

関連トピック

「Add voicemail service」

ボイスメール サービスの適用

Cisco Unified Communications Manager でボイスメール サービスを追加した後は、Cisco Jabber for Windows が設定を取得できるように、そのボイスメール サービスをサービス プロファイルに適用する必要があります。

はじめる前に

サービス プロファイルを作成します。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理（Cisco Unified CM Administration）] インターフェイスを開きます。

ステップ 2 [ユーザ管理（User Management）]>[ユーザ設定（User Settings）]>[サービス プロファイル（Service Profile）] を選択します。
[サービス プロファイルの検索/一覧表示（Find and List Service Profiles）] ウィンドウが開きます。

ステップ 3 サービス プロファイルを検索し、選択します。
[サービス プロファイルの設定（Service Profile Configuration）] ウィンドウが開きます。

ステップ 4 次の手順に従って、[ボイスメール プロファイル（Voicemail Profile）] セクションを設定します。

a) 次のドロップダウン リストから、最大 3 つのサービスを選択します。

- プライマリ（Primary）
- セカンダリ（Secondary）
- ターシャリ（Tertiary）

b) クレデンシャルとボイスメール サービスを同期させるには、[ボイスメール サービスのクレデンシャル ソース（Credentials source for voicemail service）] ドロップダウン リストから [Unified CM - IM and Presence] を選択します。
[Unified CM - IM and Presence] では、ボイスメール サービスにログインするためにインスタント メッセージおよびプレゼンスのクレデンシャルを使用します。 このため、Cisco Jabber for Windows ユーザはクライアントでボイスメール サービス用のクレデンシャルを入力する必要がありません。

（注） [Web 会議（Web conferencing）] は選択しないでください。 このオプションでは、ボイスメール サービスにログインするために会議のクレデンシャルが使用されます。 Cisco Jabber for Windows は、現在、会議のクレデンシャルとの同期をサポートしていません。

ステップ 5 [保存（Save）] を選択します。

関連トピック

「Service profile setup」

メールストア サービスの追加

メールストア サービスは、Cisco Jabber for Windows ユーザに表示によるボイスメール機能を提供します。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理（Cisco Unified CM Administration）] インターフェイスを開きます。

ステップ 2 [ユーザ管理（User Management）] > [ユーザ設定（User Settings）] > [UC サービス（UC Service）] を選択します。
[UC サービスの検索/一覧表示（Find and List UC Services）] ウィンドウが開きます。

ステップ 3 [新規追加（Add New）] を選択します。
[UC サービスの設定（UC Service Configuration）] ウィンドウが開きます。

ステップ 4 [UC サービスの追加（Add a UC Service）] セクションで、[UC サービス タイプ（UC Service Type）] ドロップダウン リストから [メールストア（MailStore）] を選択します。

ステップ 5 [次へ（Next）] を選択します。

ステップ 6 次の手順に従って、インスタント メッセージおよびプレゼンス サービスの詳細を指定します。

a) [名前（Name）] フィールドで、サービスの名前を指定します。
指定した名前は、サービスをプロファイルに追加するときに表示されます。 指定する名前は、意味があり、識別しやすい固有の名前にします。

b) [説明（Description）] フィールドで、任意の説明を指定します。

c) [ホスト名/IP アドレス（Host Name/IP Address）] フィールドで、メールストア サービス アドレスを指定します。

d) [ポート（Port）] フィールドで、メールストア サービスのポート番号を指定します。

ステップ 7 [保存（Save）] を選択します。

次の作業

メールストア サービスをサービス プロファイルに追加します。

関連トピック

「Add mailstore service」

メールストア サービスの適用

Cisco Unified Communications Manager でメールストア サービスを追加した後は、Cisco Jabber for Windows が設定を取得できるように、そのメールストア サービスをサービス プロファイルに適用する必要があります。

はじめる前に

サービス プロファイルを作成します。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理（Cisco Unified CM Administration）] インターフェイスを開きます。

ステップ 2 [ユーザ管理（User Management）]>[ユーザ設定（User Settings）]>[サービス プロファイル（Service Profile）] を選択します。
[サービス プロファイルの検索/一覧表示（Find and List Service Profiles）] ウィンドウが開きます。

ステップ 3 サービス プロファイルを検索し、選択します。
[サービス プロファイルの設定（Service Profile Configuration）] ウィンドウが開きます。

ステップ 4 次の手順に従って、[メールストア プロファイル（MailStore Profile）] セクションを設定します。

a) 次のドロップダウン リストから、最大 3 つのサービスを選択します。

- プライマリ（Primary）
- セカンダリ（Secondary）
- ターシャリ（Tertiary）

b) 次のフィールドに適切な値を指定します。

- Inbox フォルダ（Inbox Folder）
- ごみ箱フォルダ（Trash Folder）
- ポーリング間隔（Polling Interval）

c) メールストアが IMAP UIDPLUS 拡張子をサポートしている場合、[デュアル フォルダ モードを使用可能にする（Allow dual folder mode）] を選択します。

ステップ 5 [保存（Save）] を選択します。

関連トピック

「Service profile setup」

取得およびリダイレクションの設定

取得およびリダイレクションを設定すると、Cisco Jabber for Windows がクライアントインターフェイスからボイスメールメッセージにアクセスし、着信音声コールをボイスメールサービスにリダイレクトできるようになります。 Cisco Unified Communications Manager で、ボイスメールの取得およびリダイレクションを設定します。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理（Cisco Unified CM Administration）] インターフェイスを開きます。

ステップ 2 ボイスメール パイロットを設定します。

a) [拡張機能（Advanced Features）] > [ボイス メール（Voice Mail）] > [ボイス メール パイロット（Voice Mail Pilot）] を選択します。
[ボイス メール パイロットの検索/一覧表示（Find and List Voice Mail Pilots）] ウィンドウが開きます。

b) [新規追加（Add New）] を選択します。
[ボイス メール パイロットの設定（Voice Mail Pilot Configuration）] ウィンドウが開きます。

c) [ボイス メール パイロットの設定（Voice Mail Pilot Configuration）] ウィンドウで、必要な詳細を指定します。

d) [保存（Save）] を選択します。

ステップ 3 ボイスメール パイロットをボイスメール プロファイルに追加します。

a) [拡張機能（Advanced Features）] > [ボイス メール（Voice Mail）] > [ボイス メール プロファイル（Voice Mail Profile）] を選択します。
[ボイス メール メール プロファイルの検索/一覧表示（Find and List Voice Mail Mail Profiles）] ウィンドウが開きます。

b) [ボイス メールプロファイル名によるボイス メールプロファイルの検索（Find Voice Mail Profile where Voice Mail Profile Name）] フィールドで適切なフィルタを指定し、[検索（Find）] を選択してプロファイルのリストを取得します。

c) 対象のプロファイルをリストから選択します。
[ボイス メール パイロットの設定（Voice Mail Pilot Configuration）] ウィンドウが開きます。

d) [ボイス メール パイロット（Voice Mail Pilot）] ドロップダウン リストからボイスメール パイロットを選択します。

e) [保存（Save）] を選択します。

ステップ 4 電話番号の設定でボイスメール プロファイルを指定します。

a) [デバイス（Device）] > [電話（Phone）] を選択します。
[電話の検索/一覧表示（Find and List Phones）] ウィンドウが開きます。

b) [電話の検索場所（Find Phone where）] フィールドで適切なフィルタを指定し、[検索（Find）] を選択してデバイスのリストを取得します。

c) 対象のデバイスをリストから選択します。

[電話の設定（Phone Configuration）] ウィンドウが開きます。

d) [割り当て情報（Association Information）] セクションを見つけます。
e) 適切なデバイス番号を選択します。
[電話番号の設定（Directory Number Configuration）] ウィンドウが開きます。
f) [電話番号の設定（Directory Number Settings）] セクションを見つけます。
g) [ボイス メール プロファイル（Voice Mail Profile）] ドロップダウン リストからボイスメール プロファイルを選択します。
h) [保存（Save）] を選択します。

「8.6.x: Cisco Voice-Mail Pilot Configuration」
「8.6.x: Voice-Mail Profile Configuration」
「9.0.x: Cisco voice-mail pilot setup」
「9.0.x: Voice-mail profile setup」

Cisco WebEx Meeting Center との統合

Cisco WebEx Meeting Center は、Cisco Jabber for Windows にミーティングおよび会議サービスを提供します。

設定可能な Cisco WebEx Meeting Center 導入のタイプを確認してください。 認証の設定方法を学習し、Cisco Jabber for Windows と Cisco WebEx Meeting Center 間の通信を有効にしてください。

Cisco WebEx Meeting Center との統合

このリリースでは、Cisco Jabber for Windows のオンプレミス導入に、次の 2 種類の Cisco WebEx Meeting Center 統合があります。

- クラウドベース 統合
- ハイブリッド クラウドベース統合

クラウドベース統合

クラウドベース統合は、Cisco WebEx Meeting Center が次のサービスを Cisco Jabber for Windows に提供する環境を指します。

- 参加者チャットや参加者リストなどのデータ。
- 音声およびビデオ機能。

ハイブリッド クラウドベース統合

ハイブリッド クラウドベース統合は、次の環境を指します。

- Cisco WebEx Meeting Center が参加者チャットや参加者リストなどのデータを提供する。
- 会議ブリッジが音声およびビデオ機能を提供する。

Cisco WebEx Meeting Center による認証

Cisco Jabber for Windows では、Cisco WebEx Meeting Center による次のタイプの認証をサポートしています。

直接認証

Cisco Jabber for Windows は、ユーザのクレデンシャルを Cisco WebEx Meeting Center に直接渡すことができます。

直接認証を有効にするには、次の手順を実行します。

1. Cisco WebEx 管理ツール を使用して Cisco WebEx Meeting Center のユーザ アカウントを作成します。

   直接認証シナリオでは、Cisco WebEx Meeting Center が、ユーザのクレデンシャルを検証する必要があります。 ユーザ アカウントには、Cisco Jabber for Windows が認証を試みたときに Cisco WebEx Meeting Center で検証できるよう、クレデンシャルが保持されます。

2. Cisco WebEx Meeting Center ユーザのクレデンシャルを Cisco Jabber for Windows に提供します。

   詳細については、*Cisco WebEx Meeting Center* クレデンシャルの提供を参照してください。

詳細については、Cisco WebEx マニュアルの「*Overview of Loosely Coupled Integration*」を参照してください。

アイデンティティ プロバイダーによる認証

Cisco Jabber for Windows は、Cisco WebEx Meeting Center からアイデンティティ プロバイダーに認証をリダイレクトできます。

アイデンティティ プロバイダーによる認証を有効にするには、次の手順を実行します。

1. 必要に応じてアイデンティティ プロバイダーをセットアップします。

   Cisco Jabber for Windows ユーザが Cisco WebEx Meeting Center による認証を試みると、Cisco Jabber for Windows はその認証をアイデンティティ プロバイダーにリダイレクトします。アイデンティティプロバイダーはクレデンシャルを検証し、認証トークンを Cisco Jabber for Windows に返します。 Cisco Jabber for Windows はそのトークンを Cisco WebEx Meeting Center に渡して、認証プロセスを完了します。

2. Cisco WebEx Meeting Center ユーザのクレデンシャルを Cisco Jabber for Windows に提供します。

   詳細については、*Cisco WebEx Meeting Center* クレデンシャルの提供を参照してください。

Cisco WebEx メッセンジャー サービスを使用したユーザ アイデンティティの管理の詳細については、Cisco WebEx マニュアルの「*Using SSO with the Cisco WebEx and Cisco WebEx Meeting applications*」を参照してください。

関連トピック

「Overview of Loosely Coupled Integration」
「Using SSO with the Cisco WebEx and Cisco WebEx Meeting applications」
「Overview of Loosely Coupled Integration」
「Using SSO with the Cisco WebEx and Cisco WebEx Meeting applications」

Cisco WebEx Meeting Center クレデンシャルの提供

Cisco Jabber for Windows は、Cisco WebEx Meeting Center に対して直接認証を行います。

Cisco WebEx Meeting Center にクレデンシャルを提供するには、次のいずれかの方法を選択します。

- Cisco Jabber for Windows ユーザが、[オプション（Options）] ウィンドウで Cisco WebEx Meeting Center クレデンシャルを個別に指定する。
- Cisco Unified Communications Manager で Cisco WebEx Meeting Center 用のクレデンシャル ソースを指定する。 クレデンシャル ソースは、会議サービスをサービス プロファイルに適用するときに指定します。 詳細については、サービス プロファイルへの *Cisco WebEx Meeting Center* サーバの追加を参照してください。

Cisco Jabber for Windows での Cisco WebEx Meeting Center クレデンシャルの指定

Cisco Jabber for Windows ユーザは、[オプション（Options）] ウィンドウの [ミーティング（Meetings）] タブで、Cisco WebEx Meeting Center クレデンシャルを指定します。 [オプション（Options）] ウィンドウを開くには、Cisco Jabber for Windows で [ファイル（File）] > [オプション（Options）] を選択します。

Cisco WebEx Meeting Center サーバの追加

Cisco Unified Communications Manager で会議を設定するには、まず、Cisco WebEx Meeting Center サーバの詳細を追加します。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理（Cisco Unified CM Administration）] インターフェイスを開きます。

ステップ 2 [ユーザ管理（User Management）] > [ユーザ設定（User Settings）] > [UC サービス（UC Service）] を選択します。
[UC サービスの検索/一覧表示（Find and List UC Services）] ウィンドウが開きます。

ステップ 3 [新規追加（Add New）] を選択します。
[UC サービスの設定（UC Service Configuration）] ウィンドウが開きます。

ステップ 4 [UC サービスの追加（Add a UC Service）] セクションで、[UC サービス タイプ（UC Service Type）] ドロップダウン リストから [会議（Conferencing）] を選択します。

ステップ 5 [次へ（Next）] を選択します。

ステップ 6 次の手順に従って、インスタント メッセージおよびプレゼンス サービスの詳細を指定します。

a) [製品タイプ（Product Type）] ドロップダウン リストから [WebEx（会議）（WebEx (Conferencing)）] を選択します。

b) [名前（Name）] フィールドで、サービスの名前を指定します。
指定した名前は、サービスをプロファイルに追加するときに表示されます。 指定する名前は、意味があり、識別しやすい固有の名前にします。

c) [説明（Description）] フィールドで、任意の説明を指定します。

d) [ホスト名/IP アドレス（Host Name/IP Address）] フィールドで、会議サービス ホスト名を指定します。
（注） IP アドレスではなく、ホスト名を指定する必要があります。

e) [ポート（Port）] フィールドで、会議サービスのポート番号を指定します。

f) [プロトコル（Protocol）] ドロップダウン リストから [HTTPS] を選択します。

g) シングル サインオン（SSO）プロバイダーとして Cisco WebEx を使用する予定がない場合は、[Web 会議サーバを SSO アイデンティティ プロバイダーとして使用する（Use web conference server as SSO identity provider）] チェックボックスをオフにします。

（注） このフィールドは、[製品タイプ（Product Type）] ドロップダウン リストから [WebEx（会議）（WebEx (Conferencing)）] を選択した場合のみ使用できます。

ステップ 7 [保存（Save）] を選択します。

次の作業

サービス プロファイルに Cisco WebEx Meeting Center サーバを追加します。

関連トピック

「Add conferencing service」

サービス プロファイルへの Cisco WebEx Meeting Center サーバの追加

Cisco Unified Communications Manager で Cisco WebEx Meeting Center サーバを追加した後は、Cisco Jabber for Windows がプロファイルからその Cisco WebEx Meeting Center サーバの詳細を取得して会議機能にアクセスできるように、そのサーバをサービス プロファイルに適用する必要があります。

はじめる前に

サービス プロファイルを作成します。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理（Cisco Unified CM Administration）] インターフェイスを開きます。

ステップ 2 [ユーザ管理（User Management）]>[ユーザ設定（User Settings）]>[サービス プロファイル（Service Profile）] を選択します。
[サービス プロファイルの検索/一覧表示（Find and List Service Profiles）] ウィンドウが開きます。

ステップ 3 サービス プロファイルを検索し、選択します。
[サービス プロファイルの設定（Service Profile Configuration）] ウィンドウが開きます。

ステップ 4 次の手順に従って、[会議プロファイル（Conferencing Profile）] セクションを設定します。

a) [プライマリ（Primary）] ドロップダウン リストからサーバを選択します。
（注） Cisco Jabber for Windows では、[プライマリ（Primary）] ドロップダウン リストから選択したサービスだけが使用されます。[セカンダリ（Secondary）] または [ターシャリ（Tertiary）] ドロップダウン リストからサービスを選択する必要はありません。

b) [サーバ証明書の確認（Server Certificate Verification）] ドロップダウン リストから、適切な値を選択します。

c) [Web 会議サービスのクレデンシャル ソース（Credentials source for web conference service）] ドロップダウン リストから、次のいずれかを選択します。

未設定（Not set）

ユーザには、Cisco WebEx Meeting Center クレデンシャルに一致するクレデンシャル ソースがありません。

Unified CM - IM and Presence

ユーザの Cisco Unified Communications IM and Presence クレデンシャルが Cisco WebEx Meeting Center クレデンシャルに一致します。

ボイスメール（Voicemail）

ユーザの Cisco Unity Connection クレデンシャルが Cisco WebEx Meeting Center クレデンシャルに一致します。

制約事項 Cisco WebEx Meeting Center での認証にアイデンティティ プロバイダーを使用する場合は、クレデンシャル ソースを指定できません。

重要 クレデンシャル ソースを選択する場合は、それらのクレデンシャルとユーザの Cisco WebEx Meeting Center クレデンシャルを一致させる必要があります。

Cisco Unified Communications Manager で指定するクレデンシャルと Cisco WebEx Meeting Center で指定するクレデンシャルを同期するメカニズムはありません。 たとえば、ユーザのインスタント メッセージおよびプレゼンスのクレデンシャルをユーザの Cisco WebEx Meeting Center クレデンシャルと同期させるように指定します。 すると、ユーザのインスタントメッセージおよびプレゼンスのクレデンシャルが変更されます。 この変更に合わせて、ユーザの Cisco WebEx Meeting Center クレデンシャルを更新する必要があります。

ステップ 5 [保存（Save）] を選択します。

関連トピック

「Service profile setup」

Microsoft Office との統合の設定

Cisco Jabber for Windows を Microsoft Office と統合すると、ユーザは、Microsoft Office スイートのアプリケーションで他のユーザとアベイラビリティ ステータスを共有できます。 また、Microsoft Office との統合により、Cisco Jabber for Windows ユーザは、Microsoft Office で他のユーザと簡単にチャットを始め、音声およびビデオ コールを行うことができます。

Microsoft Outlook でのアベイラビリティ ステータスの有効化

Cisco Jabber for Windows と Microsoft Outlook の統合を有効にするには、Microsoft Active Directory で proxyAddresses 属性の値として SIP:user@cupdomain を指定します。 それにより、Cisco Jabber for Windows ユーザは、Microsoft Outlook でアベイラビリティを共有できます。

次の操作で、proxyAddresses 属性を変更できます。

Active Directory ユーザとコンピュータなどの Active Directory 管理ツールを使用する

Active Directory ユーザとコンピュータ管理ツールは、Microsoft Windows Server 2008 以降での属性の編集を可能にします。

ADSchemaWizard.exe ユーティリティを使用する

ADSchemaWizard.exe ユーティリティは、Cisco.com の Cisco Jabber for Windows 管理パッケージで入手できます。 このユーティリティは、各ユーザに proxyAddresses 属性と値 SIP:user@cupdomain が追加されるようにディレクトリを変更する、LDIF ファイルを生成します。

Active Directory ユーザとコンピュータ管理ツールの属性の編集機能をサポートしていない、Microsoft Windows Server 2003 などのサーバでは、ADSchemaWizard.exe ユーティリティを使用してください。 ADSI Edit などのツールを使用して、ADSchemaWizard.exe ユーティリティで適用する変更を検証できます。

ADSchemaWizard.exe ユーティリティには、Microsoft .NET Framework バージョン 3.5 以降が必要です。

Microsoft Windows PowerShell を使用してスクリプトを作成する

Microsoft Outlook でプレゼンスを有効にするためのスクリプトの作成については、適切な Microsoft のマニュアルを参照してください。

Active Directory ユーザとコンピュータ管理ツールを使用し、個々のユーザに対して Microsoft Outlook でのプレゼンスを有効にするには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 Active Directory ユーザとコンピュータ管理ツールを起動します。

Active Directory ユーザとコンピュータ管理ツールを実行するには、管理者権限が必要です。

ステップ 2 メニュー バーから [表示（View）] を選択し、ドロップダウン リストから [拡張機能（Advanced Features）] オプションを選択します。

ステップ 3 Active Directory ユーザとコンピュータ管理ツールで適切なユーザに移動します。

ステップ 4 そのユーザをダブル クリックして、[プロパティ（Properties）] ダイアログボックスを開きます。

ステップ 5 [属性エディタ（Attribute Editor）] タブを選択します。

ステップ 6 [属性（Attributes）] リスト ボックスで proxyAddresses アドレスを見つけて、選択します。

ステップ 7 [編集（Edit）] を選択して [複数の値を持つ文字列エディタ（Multi-valued String Editor）] ダイアログボックスを開きます。

ステップ 8 [追加する値（Value to add）] テキスト ボックスで、値 SIP:user@cupdomain を指定します。
たとえば、SIP:msmith@cisco.com となります。

ここで、user@cupdomain 値はユーザのインスタント メッセージ アドレスです。 cupdomain 値は Cisco Unified Presence のドメインです。

第 4 章

クラウドベース環境のセットアップ

この章では、Cisco WebEx を使用したクラウドベース環境をセットアップするために必要なタスクを理解するために役立つ情報を提供します。

（注）

- ハイブリッド クラウドベース導入では、オンプレミス サービスを設定する必要があります。 これらのサービスのプロビジョニングについては、オンプレミス環境のセットアップに関する適切な章を参照してください。
- クラウドベース環境の設定に伴うすべてのタスクの情報を記述することは、このマニュアルの範囲を超えています。 詳細情報を確認し、それぞれの導入に特有の設定タスクが実行されるよう、適切な Cisco WebEx マニュアルを参照してください。

- ディレクトリの統合，97 ページ
- インスタント メッセージおよびプレゼンスの設定，98 ページ
- 音声およびビデオ サービスの設定，100 ページ
- 電話会議サービス名アカウントの追加，101 ページ
- ボイスメールの設定，101 ページ
- Cisco WebEx Meeting Center の設定，101 ページ

ディレクトリの統合

ディレクトリ統合を設定するには、次の手順を実行します。

1. ディレクトリ統合のトピックを確認します。
   詳細については、「*Directory Integration*」を参照してください。
2. 組織情報を設定します。
   詳細については、「*Understanding the Configuration Tab*」を参照してください。

3 ユーザを作成し、プロビジョニングします。
詳細については、「*Overview of User Management*」を参照してください。

関連トピック

「Directory Integration」
「Understanding the Configuration Tab」
「Overview of User Management」

ディレクトリ グループの追加

ディレクトリ グループ、または企業グループは、管理者が Cisco Jabber for Windows ユーザに対して定義する連絡先グループとなります。

次に、ディレクトリ グループを追加するために実行する高度な手順を示します。

1 ディレクトリ統合を設定します。

2 カンマ区切り値（.csv）ファイルでディレクトリ グループを定義します。

3 Cisco WebEx 管理ツール を使用して、ディレクトリ グループをインポートします。

ディレクトリ グループの追加の詳細については、「*Directory Integration*」を参照してください。

Cisco Jabber for Windows でディレクトリ グループを追加するには、[ファイル（File）] > [新規（New）] > [ディレクトリ グループ（Directory Group）] を選択し、ディレクトリ グループを検索します。

（注） Cisco Jabber for Windows ユーザは、ディレクトリ グループを編集して連絡先を追加したり、削除したりすることはできません。 ただし、ユーザはディレクトリ グループから独自のカスタム連絡グループに連絡先をドラッグ アンド ドロップすることができます。

関連トピック

「Directory Integration」

インスタント メッセージおよびプレゼンスの設定

インスタント メッセージおよびプレゼンスを設定するには、Cisco WebEx 管理ツール を使用してインスタントメッセージおよびプレゼンスを設定します。詳細については、次のトピックを参照してください。

- 「*Cisco WebEx Connect federation with other instant messaging providers*」
- 「*Specifying IM Federation settings*」

関連トピック

「Cisco WebEx Connect federation with other instant messaging providers」
「Specifying IM Federation settings」

プライバシー オプションの設定

クラウドベース導入では、プレゼンス登録要求に対してデフォルト設定を指定できます。

手順

ステップ 1 Cisco WebEx 管理ツール を開きます。

ステップ 2 [設定（Configuration）] タブを選択します。

ステップ 3 [クライアントの接続（Connect Client）] セクションで、[一般 IM（General IM）] を選択します。[一般 IM（General IM）] ペインが開きます。

ステップ 4 次に示すように、連絡先リスト要求の適切なオプションを選択します。

オプション	説明
[ユーザに「連絡先リスト要求のオプション」の設定を許可する（Allow users to set "Options for contact list requests"）] を選択した場合	[組織内の連絡先からの要求を自動的に受け入れる（Accept requests automatically from contacts in my organization）] が自動的に、Cisco Jabber for Windows によるプレゼンス登録要求の処理方法を設定するためのデフォルト オプションになります。 ユーザは、[オプション（Options）] ウィンドウでデフォルト オプションを変更できます。
[ユーザに「連絡先リスト要求のオプション」の設定を許可する（Allow users to set "Options for contact list requests"）] を選択しない場合	Cisco Jabber for Windows によるプレゼンス登録要求の処理方法を設定します。 ユーザは、この設定を変更できません。これらの設定は、[オプション（Options）] ウィンドウで使用できません。 次のオプションのいずれかを選択します。 • すべての連絡先からの要求を自動的に受け入れる（Accept requests automatically from all contacts） • 組織内の連絡先からの要求を自動的に受け入れる（Accept requests automatically from contacts in my organization） • 各要求に関するプロンプトを表示する（Prompt me for each request）

Cisco Jabber for Windows による連絡先リスト要求の処理方法を設定するためのオプションは、次のとおりです。

すべての連絡先からの要求を自動的に受け入れる（Accept requests automatically from all contacts）

Cisco Jabber for Windows は、すべてのドメインからのプレゼンス登録要求を自動的に受け入れます。

この設定を指定すると、すべてのドメインのユーザの連絡先リストにCisco Jabber for Windows ユーザが自動的に追加され、アベイラビリティ ステータスが表示されます。

組織内の連絡先からの要求を自動的に受け入れる（Accept requests automatically from contacts in my organization）

Cisco Jabber for Windows は、指定したドメイン内のユーザからのプレゼンス登録要求のみを自動的に受け入れます。

ドメインを指定するには、[設定（Configuration）] タブの [システム設定（System Settings）] セクションで [ドメイン（Domain(s)）] を選択します。

（注） 組織内の連絡先を検索する際に、ユーザは組織内のすべてのユーザの一時的なアベイラビリティ ステータスを確認できます。 ただし、ユーザ A がユーザ B をブロックすると、ユーザ B はユーザ A の一時的なアベイラビリティ ステータスを検索リスト内で確認できません。

各要求に関するプロンプトを表示する（Prompt me for each request）

Cisco Jabber for Windows は、ユーザに各プレゼンス登録要求の受け入れを求めるプロンプトを表示します。

ステップ 5 [保存（Save）] を選択します。

音声およびビデオ サービスの設定

ユニファイド コミュニケーションの音声およびビデオを設定するには、Cisco WebEx 管理ツールを使用して音声およびビデオサービスを設定します。 詳細については、次のトピックを参照してください。

- 「*Getting started with Cisco Unified Communications Manager for Click to Call*」
- 「*Creating unified communications clusters*」

関連トピック

「Understanding Cisco Unified Communications integration with Cisco WebEx」
「Creating unified communications clusters」

電話会議サービス名アカウントの追加

Cisco Jabber for Windows ユーザは、デフォルトの Cisco WebEx 音声サービスまたはサードパーティの電話会議プロバイダーを利用して電話会議コールを発信できます。 ただし、サードパーティの電話会議プロバイダーの音声サービスと Cisco WebEx を統合するには、電話会議サービス名アカウントを追加する必要があります。 この統合により、Cisco Jabber for Windows ユーザは、サードパーティ プロバイダーの音声サービスによる電話会議コールを発信できるようになります。

電話会議サービス名アカウントの詳細については、『*Cisco WebEx Site Administration User's Guide*』を参照してください。

関連トピック

『Cisco WebEx Site User's Administration Guide』

ボイスメールの設定

ボイスメールを設定するには、Cisco WebEx 管理ツール を使用してボイスメールを設定します。詳細については、「*Specifying visual voicemail settings*」を参照してください。

関連トピック

「Specifying visual voicemail settings」

Cisco WebEx Meeting Center の設定

Cisco WebEx 管理ツール で適切な設定を行い、適切な Cisco Jabber for Windows ユーザにミーティングおよび会議機能を割り当てる必要があります。

詳細については、「*Understanding Cisco WebEx Connect Integration with the Cisco WebEx application*」を参照してください。

関連トピック

「Understanding Cisco WebEx Connect integration with the Cisco WebEx application」

Cisco WebEx Meeting Center による認証

Cisco Jabber for Windows では、Cisco WebEx Meeting Center による次のタイプの認証をサポートしています。

Cisco WebEx メッセンジャー サービスとの緊密な統合

緊密な統合とは、Cisco WebEx メッセンジャー と Cisco WebEx Meeting Center 間の設定を指します。

Cisco Jabber for Windows ユーザが Cisco WebEx メッセンジャー を使用して認証する場合、Cisco WebEx メッセンジャー は認証トークンを Cisco Jabber for Windows に返します。 Cisco Jabber for Windows は、その認証トークンを Cisco WebEx Meeting Center に渡します。

詳細については、Cisco WebExの「*Overview of Tightly Coupled Integration*」を参照してください。

直接認証

Cisco Jabber for Windows は、ユーザのクレデンシャルを Cisco WebEx Meeting Center に直接渡すことができます。

直接認証を有効にするには、次の手順を実行します。

1. Cisco WebEx 管理ツール を使用して Cisco WebEx Meeting Center のユーザ アカウントを作成します。

   直接認証シナリオでは、Cisco WebEx Meeting Center が、ユーザのクレデンシャルを検証する必要があります。 ユーザ アカウントには、Cisco Jabber for Windows が認証を試みたときに Cisco WebEx Meeting Center で検証できるよう、クレデンシャルが保持されます。

2. Cisco Jabber for Windows での Cisco WebEx Meeting Center クレデンシャルを指定します。

詳細については、Cisco WebEx マニュアルの「*Overview of Loosely Coupled Integration*」を参照してください。

アイデンティティ プロバイダーによる認証

Cisco Jabber for Windows は、Cisco WebEx Meeting Center からアイデンティティ プロバイダーに認証をリダイレクトできます。

アイデンティティ プロバイダーによる認証を有効にするには、次の手順を実行します。

1. 必要に応じてアイデンティティ プロバイダーをセットアップします。

   Cisco Jabber for Windows ユーザが Cisco WebEx Meeting Center による認証を試みると、Cisco Jabber for Windows はその認証をアイデンティティ プロバイダーにリダイレクトします。 アイデンティティプロバイダーはクレデンシャルを検証し、認証トークンを Cisco Jabber for Windows に返します。 Cisco Jabber for Windows はそのトークンを Cisco WebEx Meeting Center に渡して、認証プロセスを完了します。

2. Cisco Jabber for Windows での Cisco WebEx Meeting Center クレデンシャルを指定します。

Cisco WebEx メッセンジャー サービスを使用したユーザ アイデンティティの管理の詳細については、Cisco WebEx マニュアルの「*Using SSO with the Cisco WebEx and Cisco WebEx Meeting applications*」を参照してください。

関連トピック

「Overview of Tightly Coupled Integration」
「Overview of Loosely Coupled Integration」
「Using SSO with the Cisco WebEx and Cisco WebEx Meeting applications」

Cisco Jabber for Windows での Cisco WebEx Meeting Center クレデンシャルの指定

Cisco Jabber for Windows ユーザは、[オプション（Options）] ウィンドウの [ミーティング（Meetings）] タブで、Cisco WebEx Meeting Center クレデンシャルを指定します。 [オプション（Options）] ウィンドウを開くには、Cisco Jabber for Windows で [ファイル（File）] > [オプション（Options）] を選択します。